

データヘルス計画（第1期） 年次報告書

[平成29年度]

最終更新日：平成 30 年 09 月 26 日

ＩＨＩグループ健康保険組合

STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	20490		
組合名称	I H I グループ健康保険組合		
形態	単一		
業種	機械器具製造業		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保 険者を除く	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	27,310名 男性85.9% (平均年齢43.3歳) * 女性14.1% (平均年齢40.4歳) *	27,310名 男性85.9% (平均年齢43.3歳) * 女性14.1% (平均年齢40.4歳) *
特例退職被保険 者数	-名	0名	0名
加入者数	-名	55,167名	55,167名
適用事業所数	-カ所	54カ所	54カ所
対象となる拠点 数	-カ所	381カ所	381カ所
保険料率 *調整を含む	-%	94.00%	94.00%

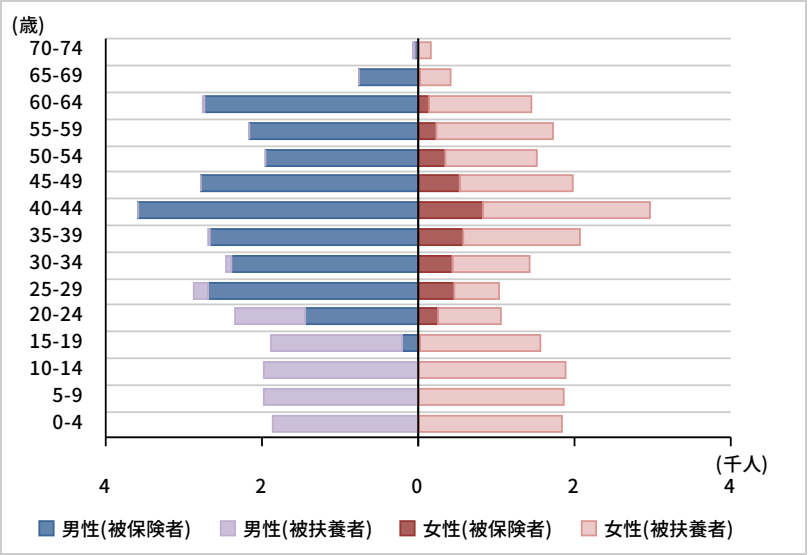
		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	-	-	0	0	0	0
	保健師等	-	-	6	0	6	0
事業主	産業医	-	-	13	0	13	0
	保健師等	-	-	36	0	36	0
		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
特定健康診査実施率	全体	-%		84.9%		84.9%	
	被保険者	-%		90.3%		90.3%	
	被扶養者	-%		74.3%		74.3%	
特定保健指導実施率	全体	-%		29.7%		29.7%	
	被保険者	-%		29.8%		29.8%	
	被扶養者	-%		28.5%		28.5%	

		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	-	-	149,168	5,462	149,168	5,462
	特定保健指導事業費	-	-	68,076	2,493	68,076	2,493
	保健指導宣伝費	-	-	26,128	957	26,128	957
	疾病予防費	-	-	288,431	10,561	288,431	10,561
	体育奨励費	-	-	0	0	0	0
	直営保養所費	-	-	174,785	6,400	174,785	6,400
	その他	-	-	1,898	69	1,898	69
	小計 …a	0	-	708,486	25,942	708,486	25,942
	経常支出合計 …b	-	-	19,079,883	698,641	19,079,883	698,641
	a/b×100 (%)	-		3.71		3.71	

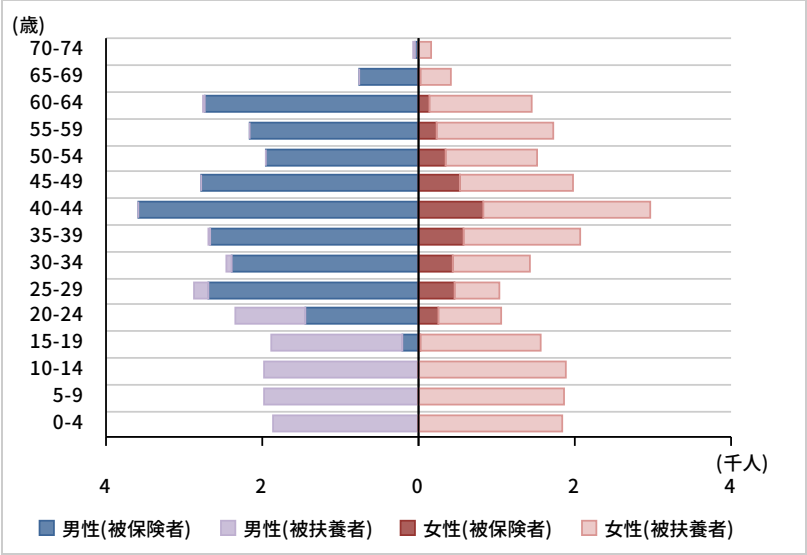
平成27年度



平成28年度



平成29年度



男性（被保険者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	0人	15～19	213人	10～14	0人	15～19	213人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	1,454人	25～29	2,694人	20～24	1,454人	25～29	2,694人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	2,388人	35～39	2,676人	30～34	2,388人	35～39	2,676人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	3,594人	45～49	2,777人	40～44	3,594人	45～49	2,777人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	1,954人	55～59	2,159人	50～54	1,954人	55～59	2,159人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	2,739人	65～69	753人	60～64	2,739人	65～69	753人
70～74	-人			70～74	53人			70～74	53人		

女性（被保険者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	0人	15～19	19人	10～14	0人	15～19	19人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	246人	25～29	468人	20～24	246人	25～29	468人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	441人	35～39	585人	30～34	441人	35～39	585人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	822人	45～49	532人	40～44	822人	45～49	532人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	343人	55～59	237人	50～54	343人	55～59	237人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	147人	65～69	14人	60～64	147人	65～69	14人
70～74	-人			70～74	2人			70～74	2人		

男性（被扶養者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	1,858人	5～9	1,977人	0～4	1,858人	5～9	1,977人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	1,969人	15～19	1,671人	10～14	1,969人	15～19	1,671人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	902人	25～29	180人	20～24	902人	25～29	180人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	74人	35～39	33人	30～34	74人	35～39	33人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	10人	45～49	3人	40～44	10人	45～49	3人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	6人	55～59	8人	50～54	6人	55～59	8人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	14人	65～69	10人	60～64	14人	65～69	10人
70～74	-人			70～74	22人			70～74	22人		

女性（被扶養者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	1,836人	5～9	1,862人	0～4	1,836人	5～9	1,862人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	1,878人	15～19	1,548人	10～14	1,878人	15～19	1,548人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	800人	25～29	579人	20～24	800人	25～29	579人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	982人	35～39	1,495人	30～34	982人	35～39	1,495人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	2,144人	45～49	1,456人	40～44	2,144人	45～49	1,456人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	1,173人	55～59	1,488人	50～54	1,173人	55～59	1,488人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	1,317人	65～69	400人	60～64	1,317人	65～69	400人
70～74	-人			70～74	162人			70～74	162人		

基本情報から見える特徴

1. 被保険者数27,310人，被扶養者数27,857人，扶養率は1.02である。
2. 被保険者の構成割合は，I H I が約40%，I H I グループ会社が約60%である。
3. 事業主は，全国に拠点を有しており，加入者も点在している。なお，対象となる拠点数は事業所数の増減が多いため概数とした。
4. 加入者数は、男女ともに40歳前半が最も多い。
5. 顧問医師は不在だが，兵庫県相生市に直営病院（播磨病院）を有しているため，必要に応じて同病院の医師にサポートを受けている。

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴

事業の一覧

健保組合の取組	
特定健康診査事業	I H Iグループ総合健診 特定健診（被扶養者）
特定健康診査事業	I H Iグループ総合健診 特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	医療費データ情報提供
特定保健指導事業	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被保険者）
特定保健指導事業	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被扶養者）
特定保健指導事業	IHIグループ健康サポート個別サポート（被扶養者）
特定保健指導事業	IHIグループ健康サポート健康教室
特定保健指導事業	I H Iグループ健康チャレンジキャンペーン
保健指導宣伝	広報誌（Salu!）発行
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	ジェネリック差額通知
保健指導宣伝	ホームページ
疾病予防	IHIグループ総合健診 前立腺がん検査（被保険者）
疾病予防	人間ドック
疾病予防	自治体がん検査
疾病予防	電話健康相談
疾病予防	IHIグループ総合健診 基本健診＋選択できる検査（被扶養者）
疾病予防	IHIグループ総合健診 婦人科検査（被保険者） 選択できる検査（任意継続被保険者）
直営保養所	直営保養所
その他	契約保養所
事業主の取組	
1	定期健康診断
2	就業措置基準に基づく健康診断事後措置
3	メンタルヘルス対策（ディフェンス）
4	メンタルヘルス対策（オフェンス）
5	有害業務従事者の健康リスクの低減
6	海外赴任者の健康管理
7	長時間労働に伴う健康障害の防止
8	喫煙対策
9	ストレス診断

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2)評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
健保組合の取組													
特定健康診査事業	1	IHIグループ総合健診特定健診（被扶養者）	【目的】 生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症等）の発症、重症化や合併症への進行予防 【概要】 巡回方式と指定医療機関方式の選択制で実施	被扶養者	全て	男女	40～74	全員	143,815	受診者数：5,854名 受診率：75.9% （目標70%キープ）	・案内の自宅発送 ・申込み回答書返送方式により、申込み受付を自前で実施。これにより申込み状況を把握し、受診勧奨策を展開できた。 ・未回答者への案内再送付 ・電話による受診奨励 ・託児コーナーの設置（一部会場） ・対象年齢を満たす場合は、自己負担なし	・未回答者への対応 ・地域により指定医療機関の数にバラつきがある。	5
	1	IHIグループ総合健診特定健診（被保険者）	【目的】 生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症等）の発症、重症化や合併症への進行予防 【概要】 事業主が実施する定期健診に、特定健診項目を付加して実施（任意継続被保険者を除く）	被保険者	全て	男女	40～74	全員	0	受診者数：14,976名 受診率：92.4% （目標100%）	－	健診結果は、事業主との契約に基づき電子データで授受しているが、一部の事業所は紙データによる授受となっている。	4
	7	医療費データ情報提供	【目的】 コラボヘルス（事業主との協働） 【概要】 加入者の疾病予防および健康づくりにつながる情報共有化し、事業主と協力関係を深める	被保険者	全て	男女	18～74	全員	0	適用事業所99事業所に対し、医療費データ情報提供を実施。 在籍者数200人以上の事業所は、該当事業所単独データとIHIグループ全体データを提供 その他の事業所は、IHIグループ全体データのみ提供	医療費データ情報提供は初めての試みであり、事業所担当者の感想や意見からは、目新しく、興味深い資料だったと思われる。	・個人の特定を避けるため、提供する医療費データが限定される。	5
特定保健指導事業	3	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被保険者）	【目的】 特定健診の結果により、健康の保持増進に努める必要があると判定された場合、特定健康診査等実施計画に定めた内容に基づき、動機づけ支援・積極的支援を実施 【概要】 ・事業主および外部専門業者へ委託して実施 ・対象者はリスト化して、事業主および外部専門業者へ定期的に送付	被保険者	全て	男女	40～74	基準該当者	7,626	【動機付け支援】 ・対象者数：1,293名 ・終了者数：支援継続中 ・実施率：支援継続中 【積極的支援】 ・対象者数：1,888名 ・終了者数：支援継続中 ・実施率：支援継続中	・事業主の協力により、就業時間中に実施	・初回面談から6ヵ月後評価まで継続させること	-
	3	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被扶養者）	【目的】 特定健診の結果により、健康の保持増進に努める必要があると判定された場合、特定健康診査等実施計画に定めた内容に基づき、動機づけ支援・積極的支援を実施 【概要】 ・健保の保健師および外部専門業者へ委託して実施	被扶養者	全て	男女	40～74	基準該当者	17,875	【動機付け支援】 ・対象者数：323名 ・終了者数：支援継続中 ・実施率：支援継続中（目標27%） 【積極的支援】 ・対象者数：137名 ・終了者数：支援継続中 ・実施率：支援継続中（目標27%）	・案内の自宅発送および電話連絡 ・案内電話の外部委託（休日等） ・健保保健師による巡回健診会場での健康相談 ・保健指導を希望しない方にも、電話連絡および関連資料を送付する等、定期的にフォローする	生活習慣改善に対する理解を深める	4
	3	IHIグループ健康サポート個別サポート（被扶養者）	【目的】 健診結果に基づく個別支援を中心に、対象者の多様な生活実態や健康意識に向き合い、当組合独自の手法を取り入れて実施 【概要】 ・健保の保健師および外部専門業者へ委託して実施 （アプローチ方法） 文書、電話、面談、メール等	被扶養者	全て	男女	20～74	基準該当者	17,222	対象者数：437名 初回アプローチ実施者数：322名 実施率：73.7%	・案内の自宅発送および電話連絡 ・案内電話の外部委託（休日等） ・健保保健師による巡回健診会場での健康相談 ・保健指導を希望しない方にも、電話連絡および関連資料を送付する等、定期的にフォローする	・生活習慣改善に対する理解を深める	4

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費 (千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象 事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	4	IHIグループ健康サポート健康教室	【目的】 ・ポピュレーションアプローチの一環として実施 ・自宅で簡単にできる運動を体験することで、日常生活に取り入れられそうなことを見つける 【概要】 ・テーマ：「笑顔あふれる90分 かんたん美姿勢ウォーキング」 ・健診結果に基づき、血圧・血糖・脂質のリスクがある方、運動習慣のない方、および希望者を対象として実施 ・11地区、13か所で開催 ・健保保健師による、地区の事情を踏まえた健康プチ講座を同時開催	被扶養者	全て	女性	20～74	全員	855	対象者数：3,693名 参加者数：182名 参加率：4.9% （目標：7.8%）	・参加者の満足度は高い（アンケート結果より） ・健康プチ講座では、生活習慣病や家族を含めた食事・運動等への関心が高まるよう働きかけた ・開催できない地域、参加できない加入者への情報提供を目的として、機関紙やホームページで教室の内容を紹介した	テーマの選択	4
	3	IHIグループ健康チャレンジキャンペーン	【目的】 ・ポピュレーションアプローチの一環として実施 ・要管理者だけではなく、リスクの低い人や若い世代を含めた全体に働きかけることで、健康への意識を高める 【概要】 あいさつ（必須）・食生活・運動・禁煙・リフレッシュなど、日常生活で実施できる11コースが記載されている冊子および記録表を配布、その中からあいさつ＋2コース以上の合計3コース以上を選び、生活習慣の改善に取り組む また、これまで被保険者のみ対象としていたが、トライアルとして被扶養者も対象にいれ実施した。	被保険者 被扶養者	全て	男女	18～74	全員	6,784	被保険者 参加会社：32社 A 対象者数：14,935名 B 参加者数：8,839名 B/A 参加率：59.2% C 達成者数：5,976名 C/A 達成率：40.0% C/B 達成率：67.6% 被扶養者 A 対象者数：606名 B 参加者数：39名 B/A 参加率：6.4%	・会議や打ち合わせ時に、参加会社の担当者が声かけを実施 ・結果の分析とフィードバック ・苦労した点、改善点等について、参加会社にヒアリングを実施し、次年度の企画に反映 ・達成賞の配布	・継続参加会社の参加率低下 ・魅力あるコースづくり ・チャレンジ期間終了後も、健康意識の高まりや取り組みが継続できるか	4
保健指導宣伝	7	広報誌（Salu!）発行	【目的】 健康保険制度や健保事業の情報発信 【概要】 事業運営方針、健保法改正の内容および健康診断の大切さや健康増進に繋がる情報等を分かりやすくPRする。 発行：年3回（春・秋・冬）	被保険者 被扶養者	全て	男女	18～74	全員	15,694	自宅直送	・タイムリーな情報提供により、健保事業の周知に寄与 ・読者目線に立った内容とするため、ほとんどの記事を健保職員が作成	読んでもらえるための誌面づくり	-
	7	医療費通知	【目的】 医療費に関する意識向上 【概要】 通知内容：医療機関名、支払った医療費等 発行：年2回	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	464	事業主経由で配布	・年2回発行としたことで業務効率が良くなり、加入者の保管面でも紛失のリスクが減った。 ・医療費通知の見方や確認ポイントを機関誌でPR	通知内容を見てもらえるPRの実施	-
	7	ジェネリック差額通知	【目的】 ・医療費に関する意識向上 ・ジェネリック医薬品への切り替え促進 【概要】 通知内容： ・新薬との差額 発行： ・年1回（3月）	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	基準該当者	1,380	対象者：2,401名 切替率：52.0% （生活習慣病のみ17.9%） ・自宅直送	・がん、精神疾患を除く、全ての疾病を対象 ・切替による軽減可能額400円以上/月	通知内容（情報）の見直しを検討し、より関心を持ってもらえる情報を提供	-
	7	ホームページ	【目的】 健康保険制度や健保事業の情報発信 【概要】 加入者への情報提供ツールとして活用	被保険者 被扶養者	全て	男女	18～74	全員	708	随時更新	・迅速な更新とタイムリーな情報提供	特になし	-
疾病予防	1	IHIグループ総合健診 前立腺がん検査（被保険者）	【目的】 ・疾病の早期発見と早期治療 ・検査項目：前立腺がん 【概要】 ・事業主が実施する定期健診と同時実施 ・検査結果は自宅直送	被保険者	全て	男性	50～74	全員	11,805	受診者数：5,768名 受診率：77.8% （目標受診率78.5%）	・事業主の協力により、定期健康診断時に実施 ・対象年齢を満たす場合は、自己負担なし	-	4

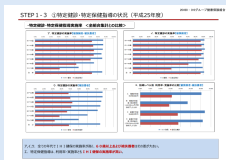
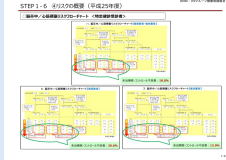
予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2)評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	1	人間ドック	【目的】 総合健診の補完的役割として、基本健診のほかオプション検査（脳ドック、婦人科など）についても、全国の健康保険取扱い医療機関で受診した場合、費用の一部を補助する。 【概要】 費用の70%（含む消費税）を補助する。ただし、補助の限度額は年度内26,000円（含む消費税）とする。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	10,582	受診者数 被保険者：451名 被扶養者：99名	・年齢制限が無い ・健康保険取扱い医療機関であれば、どこでも受診できる ・IHIグループ総合健診に含まれない検査を希望するニーズに対応できる	・リピーターが多い	-
	1	自治体がん検査	【目的】 総合健診の「選択できる検査」と同じ検査項目の自治体がん検査を受診した場合、費用の全額を補助する。 【概要】 受診費用の全額を補助	被保険者被扶養者	全て	男女	20～74	全員	24	利用者数 被保険者：5名 被扶養者：5名	・利便性の向上	・自己負担額が少ないケースが多く、申請率が低い	-
	5	電話健康相談	【目的】 健康管理充実の一助として、電話やインターネットで気軽に心身の健康や医療について相談できる窓口として設置 【概要】 「健康相談（海外対応）」、「メンタルヘルスカウンセリング」、「ベストドクターの受診案内」等、単なる健康情報の提供だけではなく、メンタル・医療機関情報・育児・介護相談等、幅広く相談できるサービス体制	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	3,771	利用者数 電話健康相談：802名 メンタル電話相談：291名 メンタルカウンセリング：48名	・専門家のアドバイスにより、健康に関する様々な不安や心配を解消することができる ・全国130カ所にカウンセリングルームを設置 ・プライバシーの完全厳守	効果測定ができない	-
	1	IHIグループ総合健診 基本健診＋選択できる検査（被扶養者）	【目的】 ・疾病の早期発見と早期治療 ・基本健診の検査項目は特定健診に準ずる。 ・選択できる検査：肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん、骨密度、B型C型肝炎 【概要】 巡回方式と指定医療機関方式の選択制で実施	被扶養者	全て	男女	20～74	基準該当者	215,357	受診者数：8,099名 受診率：73.3% （目標70%キープ）	・案内の自宅発送 ・申込み回答書返送方式により、申込み受付を自前で実施。これにより申込み状況を把握し、受診奨励策を展開できた。 ・未回答者への案内再送付 ・電話による受診奨励 ・託児コーナーの設置（一部会場） ・対象年齢を満たす場合は、自己負担なし	・未回答者への対応 ・地域により指定医療機関の数にバラつきがある	5
	1	IHIグループ総合健診 婦人科検査（被保険者） 選択できる検査（任意継続被保険者）	【目的】 ・疾病の早期発見と早期治療 ・検査項目：乳がん、子宮がん、骨密度、B型C型肝炎 【概要】 巡回方式と指定医療機関方式の選択制で実施	被保険者	全て	男女	20～74	基準該当者	29,384	女性被保険者 受診者数：2,315名 受診率：55.4% （目標57.4%） 任意継続被保険者 受診者数：680名 受診率：81.9% （目標：72.0%）	・案内の自宅発送 ・申込み回答書返送方式により、申込み受付を自前で実施、これにより申込み状況を把握し、受診奨励策を展開できた ・未回答者への案内再送付 ・電話による受診奨励 ・託児コーナーの設置（一部会場） ・対象年齢を満たす場合は、自己負担なし	・未回答者への対応 ・地域により指定医療機関の数にバラつきがある	4
直営保養所	7	直営保養所	【目的】 ・リフレッシュ ・研修・コミュニケーション ・健康増進 【概要】 被保険者および被扶養者の保養	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	193,189	直営保養所2カ所 利用者数 IHIグループ伊豆高原荘 2,904名 IHIグループ蓼科山荘 3,528名	IHIグループ伊豆高原荘 ・委託業者変更によるサービス向上 ・都心から比較的近い ・風光明媚な立地 ・温泉＆料理の質のアップ IHIグループ蓼科山荘 ・委託業者変更によるサービス向上 ・スキー場が近接している立地 ・温泉＆露天風呂＆料理の質アップ	IHIグループ伊豆高原荘 ・遊休土地の手入れ＆活用 ・近隣土地との敷地境界線の明確化 IHIグループ蓼科山荘 ・施設老朽に伴う計画的な改修 ・冬期の利用減対策の検討	-
その他	7	契約保養所	【目的】 ・リフレッシュ ・研修・コミュニケーション ・健康増進 【概要】 被保険者および被扶養者の保養	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	1,203	契約保養所 四季倶楽部：532名 その他：69名	・希望に沿った施設が選べる	・リピーターが多い	-

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2)評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
注1)	1. 健康診査	2. 健康診査後の通知	3. 保健指導	4. 健康教育	5. 健康相談	6. 訪問指導	7. その他						
注2)	1. 39%以下	2. 40%以上	3. 60%以上	4. 80%以上	5. 100%								

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同 実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
定期健康診断	安衛法に基づく健診	被保険者	男女	18 ～ 64	通年健診または集団健診 IHJ独自の健診項目（尿酸値は全年齢、入社時・35歳で心電図、40歳以上任意で胃バリウム検査と大腸検査） 受診率：90.3% 要管理者率：62.6%	-	-	無
就業措置基準に基づく健康診断事後措置	従業員自ら進んで健康管理に取り組むため、定期健康診断結果で一定の基準を超えた場合、就業上の措置をとる。	被保険者	男女	18 ～ 64	対象者発生時	-	-	無
メンタルヘルス対策（ディフェンス）	組織と個人の健康リスク低減	被保険者	男女	18 ～ 64	対象（受講率）： ・入社時（85%） ・30歳（61.8%） ・中途採用時（64.5%） ・新任班長（91.7%） ・新任職長（83.6%）	-	-	無
メンタルヘルス対策（オフェンス）	職場の活性化を促す	被保険者	男女	18 ～ 64	対象（受講率）： ・入社時（85%） ・30歳（61.8%） ・中途採用時（64.5%） ・新任班長（91.7%）	-	-	無
有害業務従事者の健康リスクの低減	健康問題が生じる可能性がある有害要因暴露下での作業や、健康リスクが高まる可能性がある就労について、予防措置、健康管理の強化に取り組む。	被保険者	男女	18 ～ 64	対象：有害業務従事者 実施：通年または集団	-	-	無
海外赴任者の健康管理	海外赴任者および長期の海外出張者の健康管理に対する支援	被保険者	男女	18 ～ 64	海外赴任時や一時帰国時など随時	-	-	無
長時間労働に伴う健康障害の防止	時間外労働に伴う健康障害防止対策実施基準に基づく健康管理	被保険者	男女	18 ～ 64	毎月	-	-	無
喫煙対策	受動喫煙防止対策	被保険者	男女	18 ～ 64	各地区で実施	-	-	無
ストレス診断	各部署ごとにストレス状況の調査（10名以上の部署のみで実施）	被保険者	男女	18 ～ 64	実施率：86.6% 健康リスク：85.3%	-	-	無

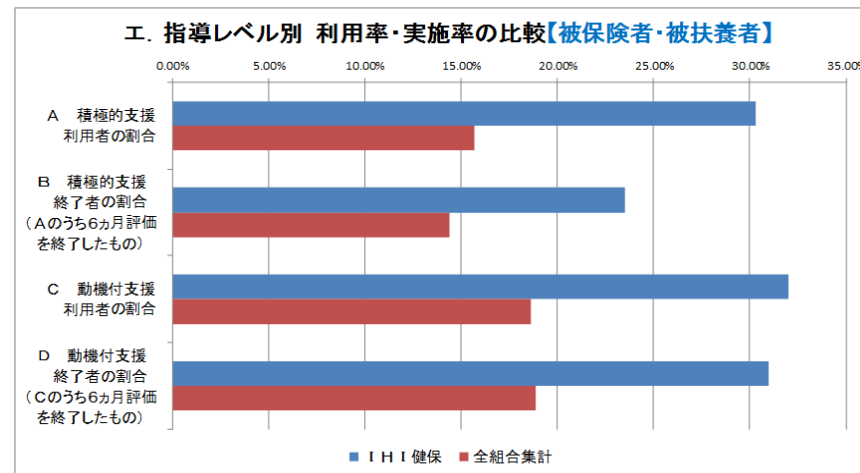
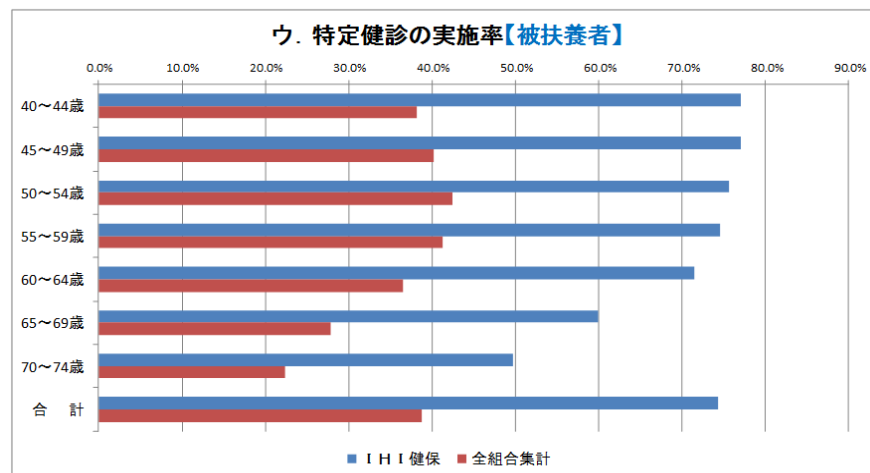
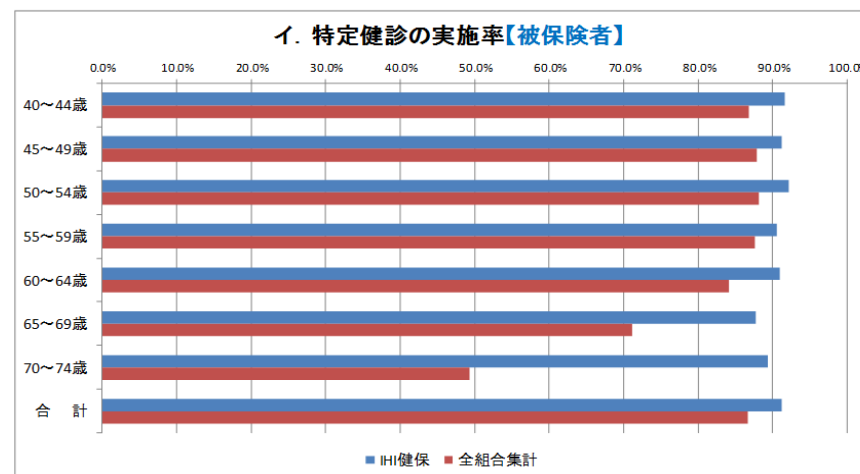
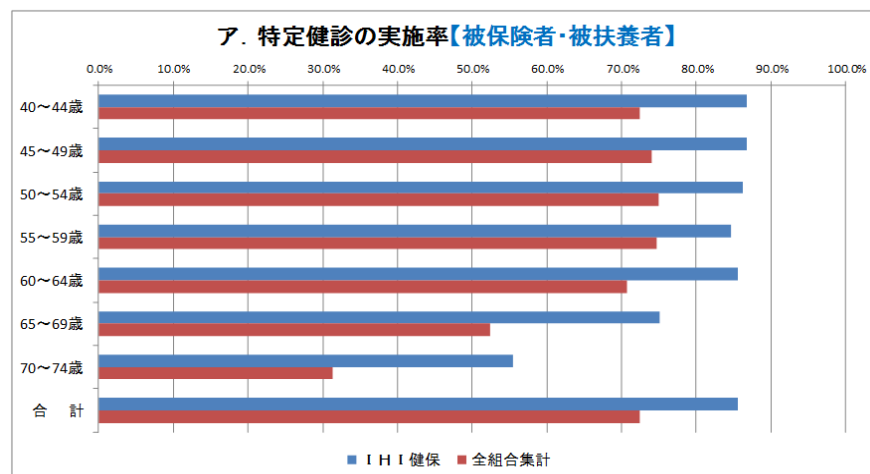
STEP1-3 基本分析

登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		① 特定健診・特定保健指導の状況（平成25年度）	特定健診分析	-
イ		② 医療費の概要（平成26年1月～12月診療分）	医療費・患者数分析	-
ウ		③ 健診結果の概要（平成25年度）	健康リスク分析	-
エ		④ リスクの概要（平成25年度）	健康リスク分析	-
オ		⑤ 医療費の適正化（平成26年1月～12月診療分）	後発医薬品分析	-

STEP 1 - 3 ①特定健診・特定保健指導の状況（平成25年度）

・特定健診・特定保健指導実施率 <全組合集計との比較>

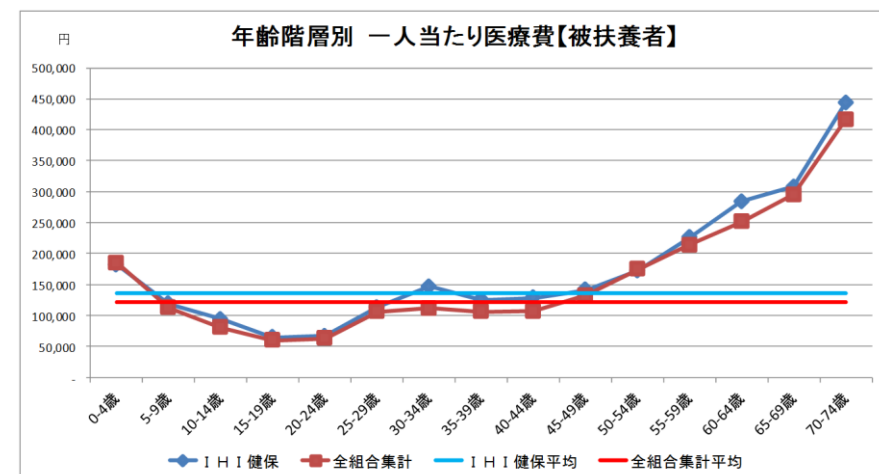
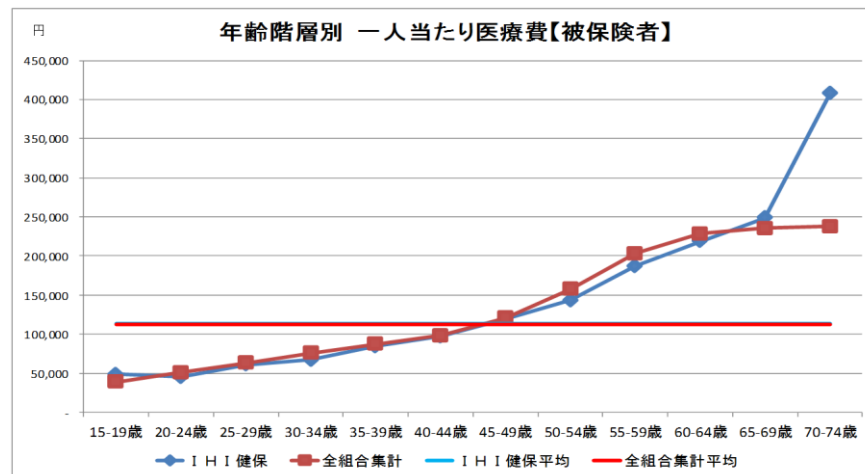
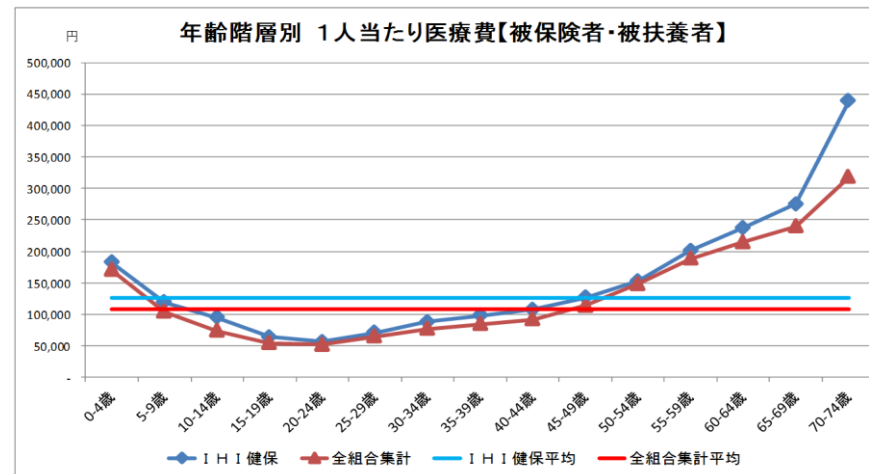


ア、イ、ウ. 全ての年代で I H I 健保の実施率が高く、**60歳以上および被扶養者**はその差が大きい。

エ. 特定保健指導は、利用率・実施率とも **I H I 健保の実施率が高い**。

STEP 1 - 4 ②医療費の概要（平成26年1月～12月診療分）

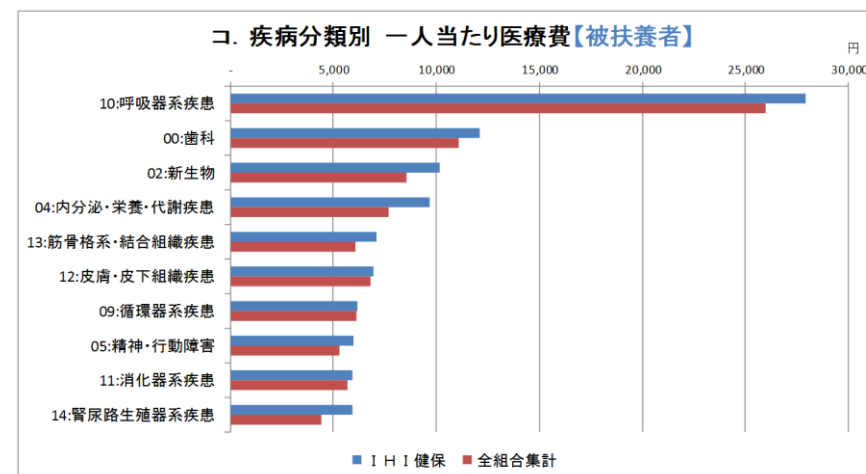
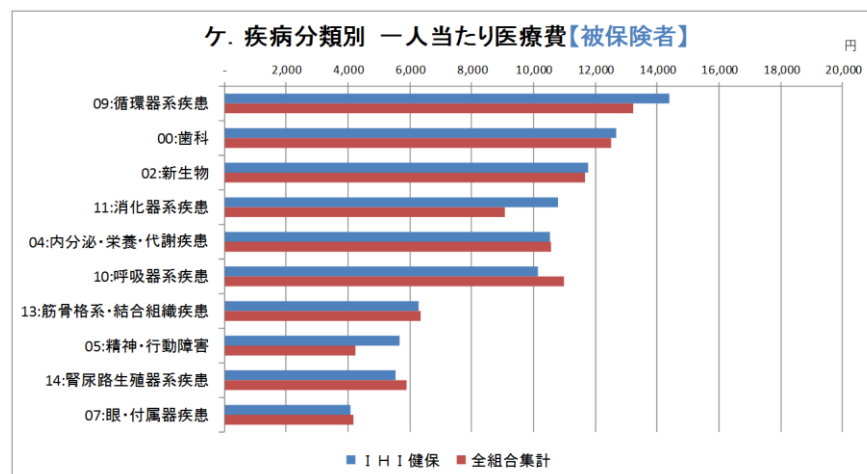
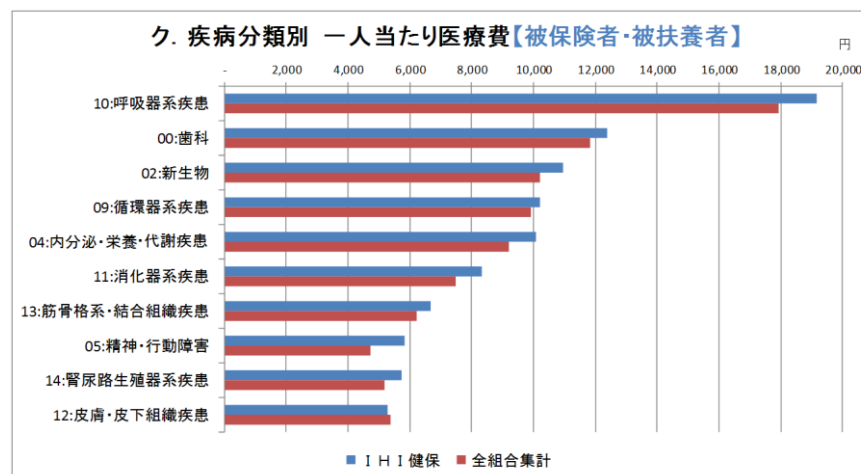
○年齢階層別 一人当たり医療費 <全組合集計との比較>



- オ. 一人当たり医療費（被保険者・被扶養者）は、**ほとんどの年代でIHI健保の方が高く**、65歳以上はその差が大きい。
- カ. 被保険者は、**64歳まではIHI健保の方が低く**、65歳以上は高くなり、その差が大きい。
- キ. 被扶養者は、**ほとんどの年代で高い**。

STEP 1 - 4 ②医療費の概要（平成26年1月～12月診療分）

○疾病分類別 一人当たり医療費 <全組合集計との比較>



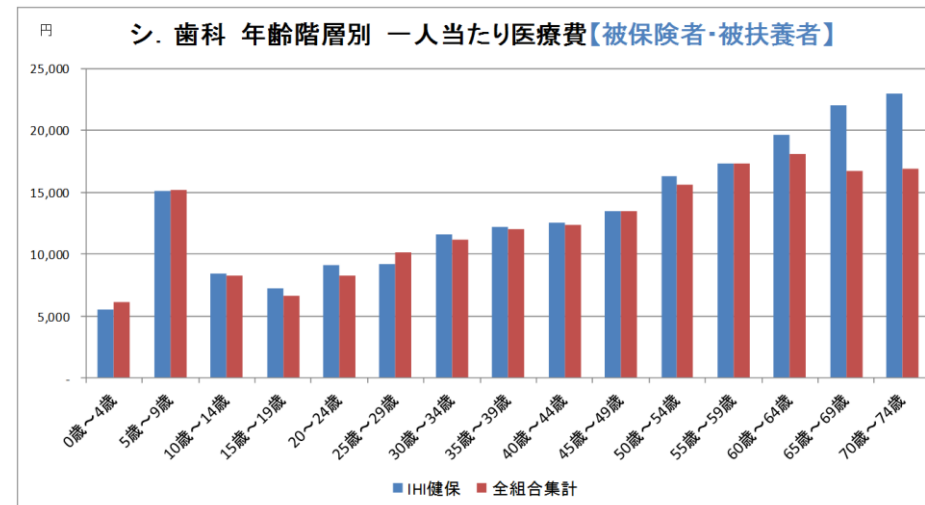
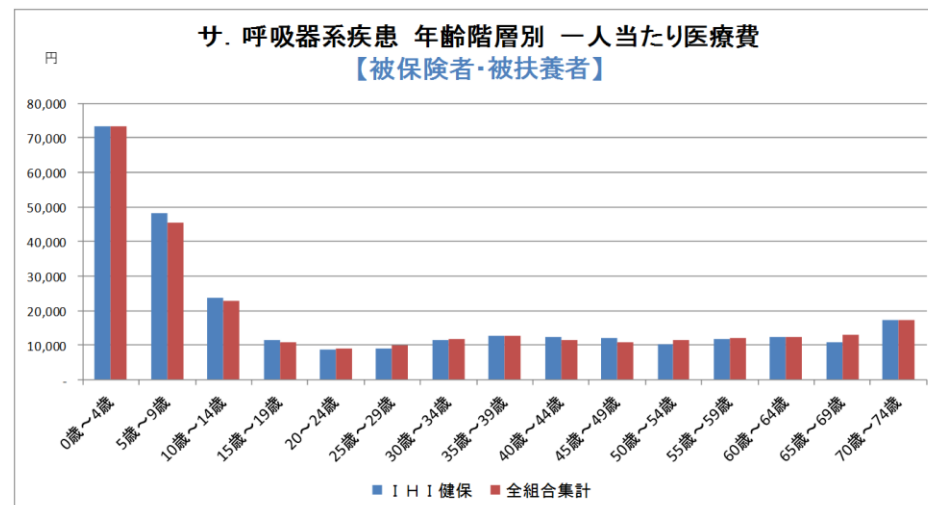
ク. 医療費上位の疾病分類別一人当たり医療費（被保険者・被扶養者）は、**全てIHI健保が高い**。

ケ. 被保険者は、「**循環器系疾患**」「**歯科**」「**新生物**」が高く、全組合集計との比較では、「**循環器系疾患**」「**消化器系疾患**」が高い。

コ. 被扶養者は、「**呼吸器系疾患**」「**歯科**」「**新生物**」が高く、全組合集計との比較では、「**新生物**」「**内分泌・栄養・代謝疾患**」が高い。

STEP 1 - 4 ②医療費の概要（平成26年1月～12月診療分）

○呼吸器系疾患・歯科 年齢階層別 一人当たり医療費 <全組合集計との比較>



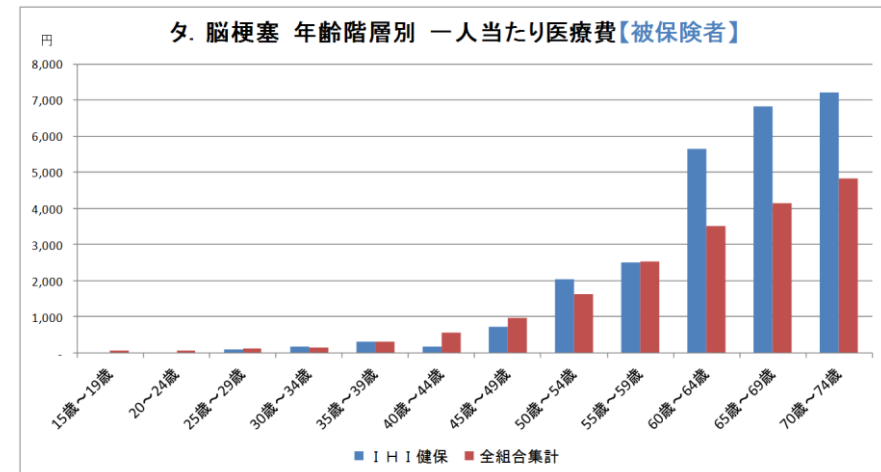
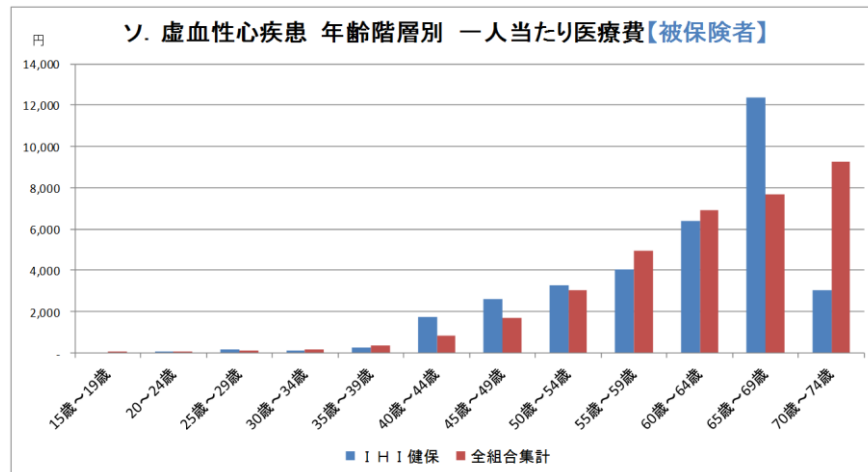
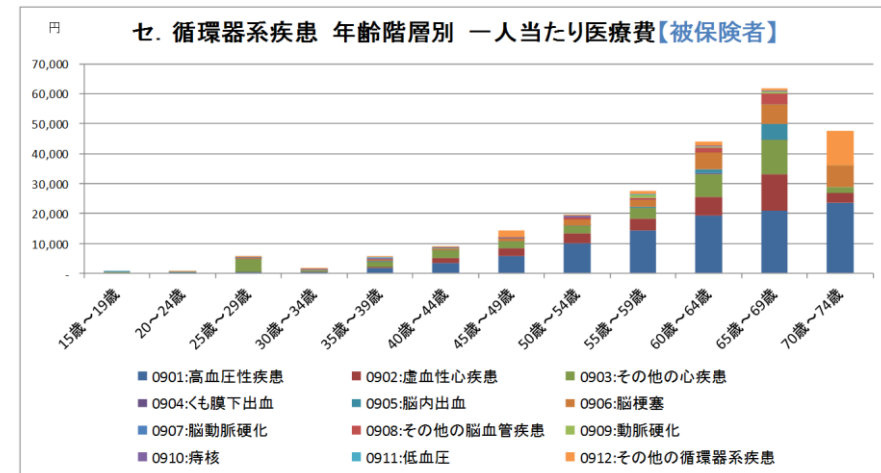
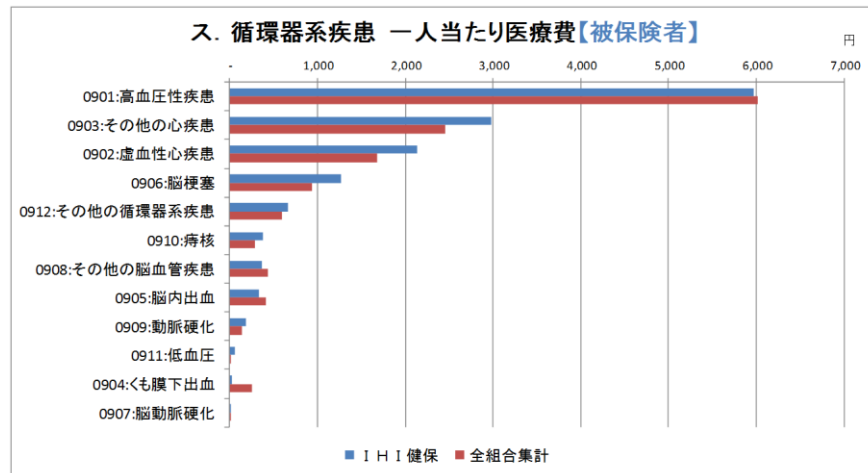
P 1 4「ク」の疾病分類別一人当たり医療費（被保険者・被扶養者）で、全組合集計との差が大きかった「呼吸器系疾患」「歯科」を年齢階層別で比較した。

サ. 呼吸器系疾患は、0～9歳が全体の41%を占めており、その他の年代については、ほぼ横ばいで**全組合集計と比較しても同等**である。

シ. 歯科は、ほとんどの年代で高く、**60歳以降はその差が大きい。**

STEP 1 - 4 ②医療費の概要（平成26年1月～12月診療分）

○循環器系疾患 一人当たり医療費 ＜全組合集計との比較＞



P 1 4「ケ」の疾病分類別一人当たり医療費（被保険者）で、全組合集計との差が大きかった「循環器系疾患」を疾病別・年齢階層別で比較した。

ス. 「高血圧性疾患」は同等で、「**虚血性心疾患**」「**脳梗塞**」が高い。

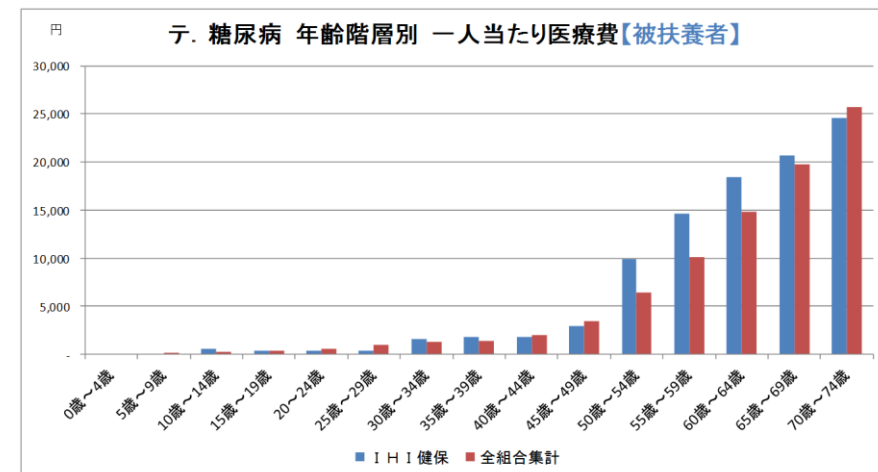
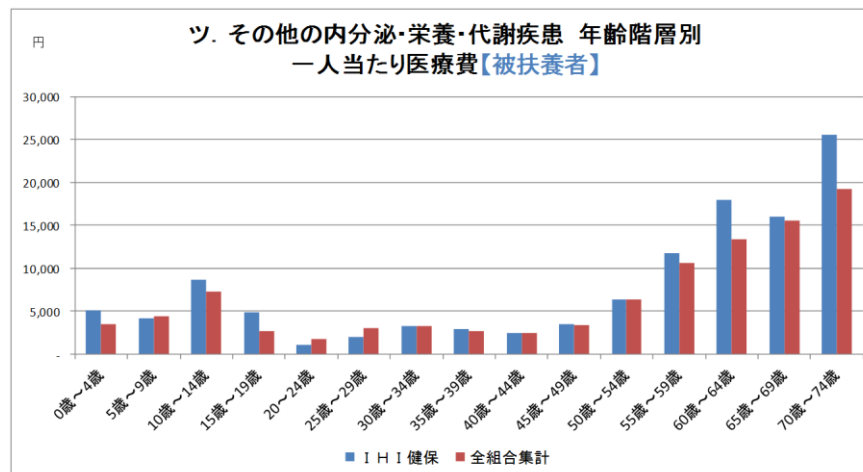
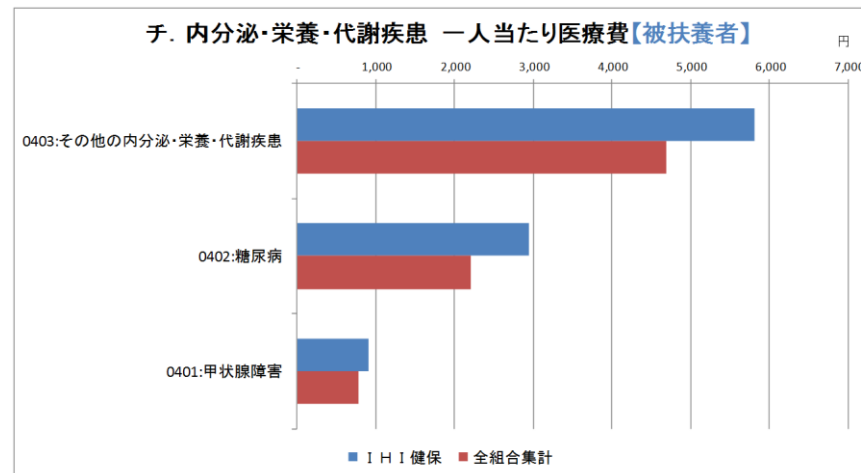
セ. 「循環器系疾患」は、**30歳代後半**から高い。

ソ. 「虚血性心疾患」は、**40歳代前半**から高い。

タ. 「脳梗塞」は、**40歳代後半**から高い。

STEP 1 - 4 ②医療費の概要（平成26年1月～12月診療分）

○内分泌・栄養・代謝疾患 一人当たり医療費 ＜全組合集計との比較＞



P 1 4「コ」の疾病分類別一人当たり医療費(被扶養者)で、集計との差が大きかった「内分泌・栄養・代謝疾患」を疾病別・年齢階層別で比較した。

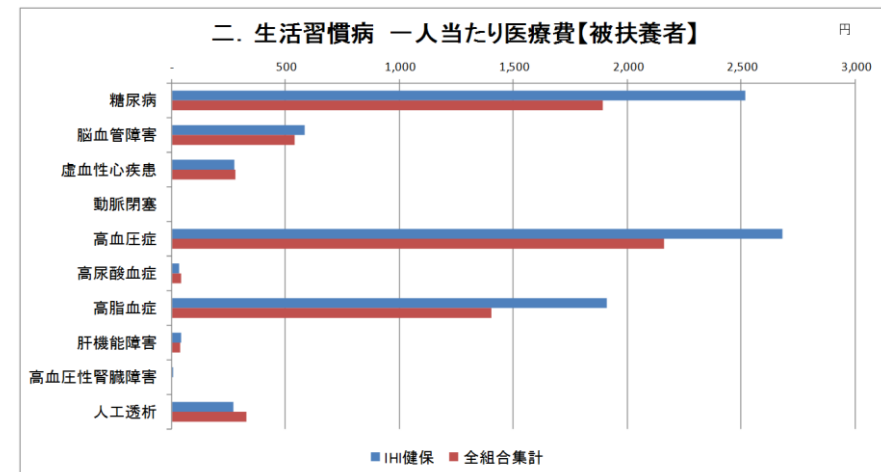
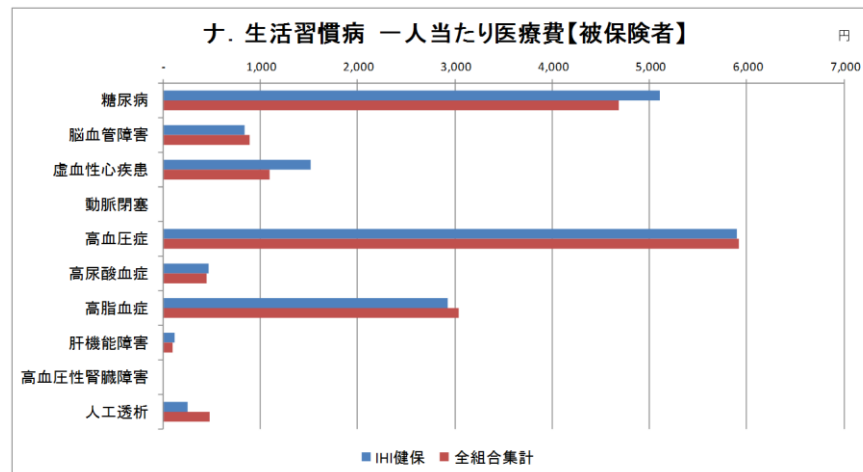
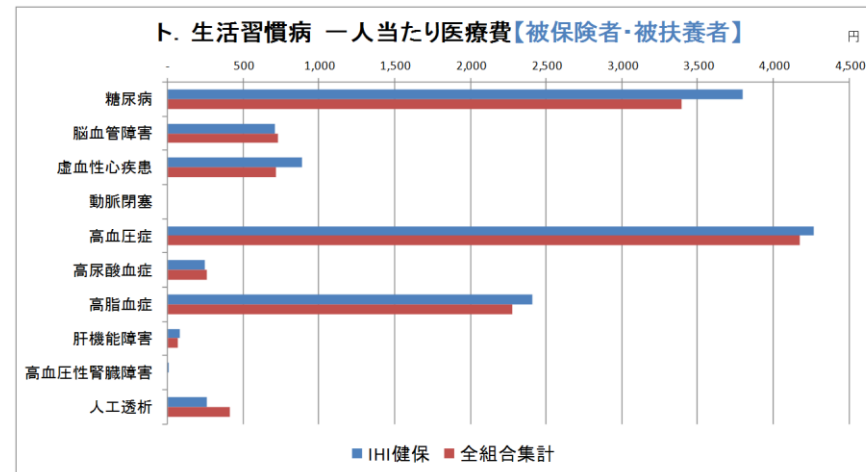
チ. 「**その他の内分泌・栄養・代謝疾患**」(主に脂質など)「**糖尿病**」が高い。

ツ. 「その他の内分泌・栄養・代謝疾患」は、20歳代を除いて**高い**。

テ. 「糖尿病」は、**50歳代前半から60歳代前半**で高い。

STEP 1 - 4 ②医療費の概要（平成26年1月～12月診療分）

○生活習慣病 一人当たり医療費 ＜全組合集計との比較＞



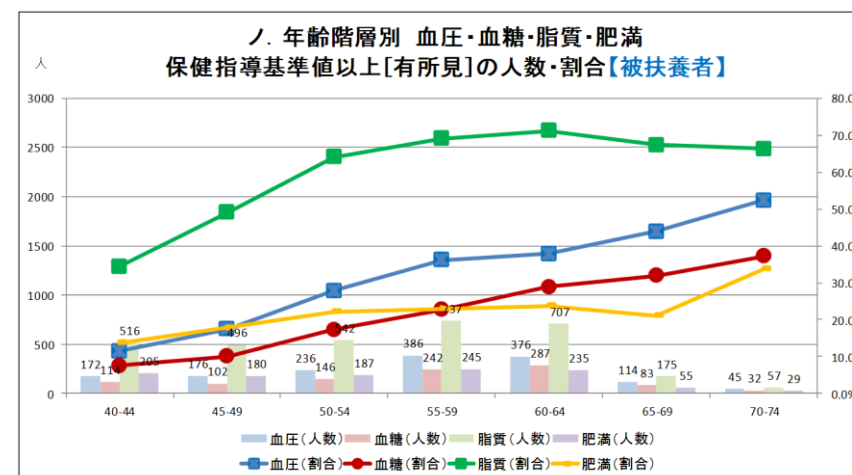
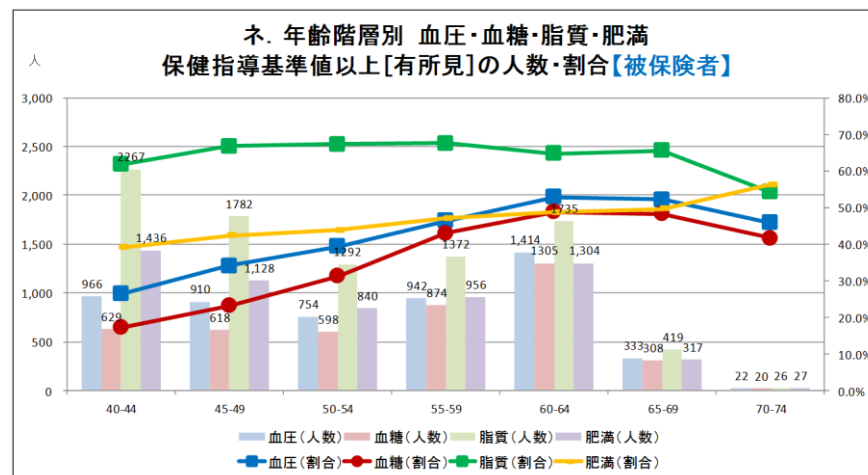
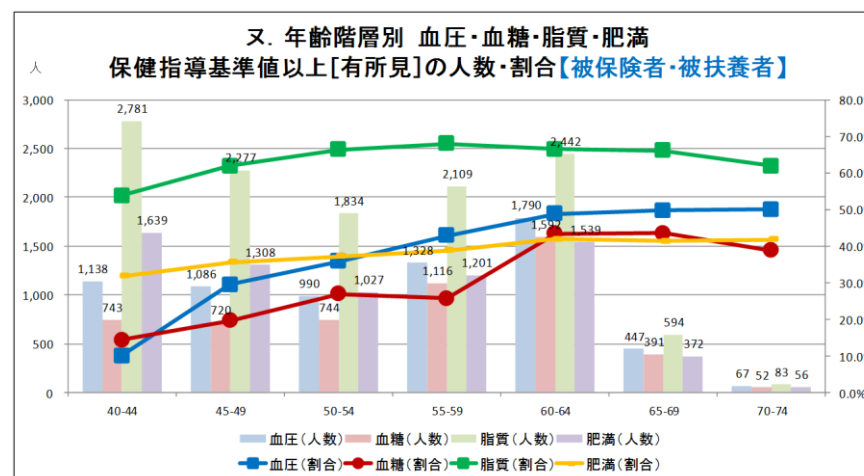
ト. 生活習慣病一人当たり医療費（被保険者・被扶養者）は、「**糖尿病**」「**虚血性心疾患**」が高い。

ナ. 被保険者は、「**虚血性心疾患**」が高く、「**高血圧症**」「**高脂血症**」が低い。これは、治療しないで**重症化している**ことが考えられる。

ヒ. 被扶養者は、「**糖尿病**」「**高血圧症**」「**高脂血症**」が高く、「**虚血性心疾患**」が低い。これは、健診受診率が高いことから早期に治療を開始し、**重症化していないこと**が考えられる。

STEP 1 - 5 ③健診結果の概要（平成25年度）

○血圧・血糖・脂質・肥満 有所見者の人数・割合



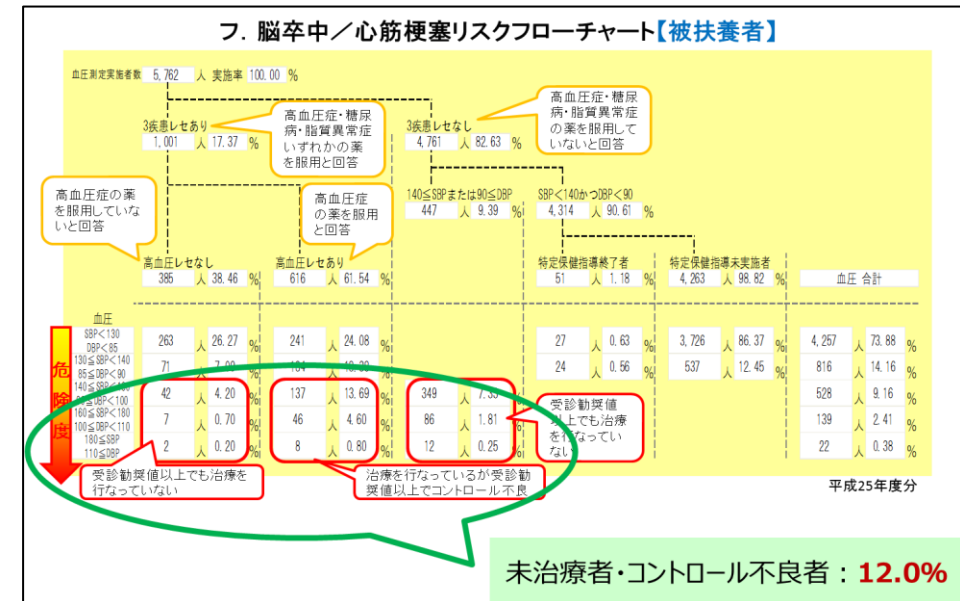
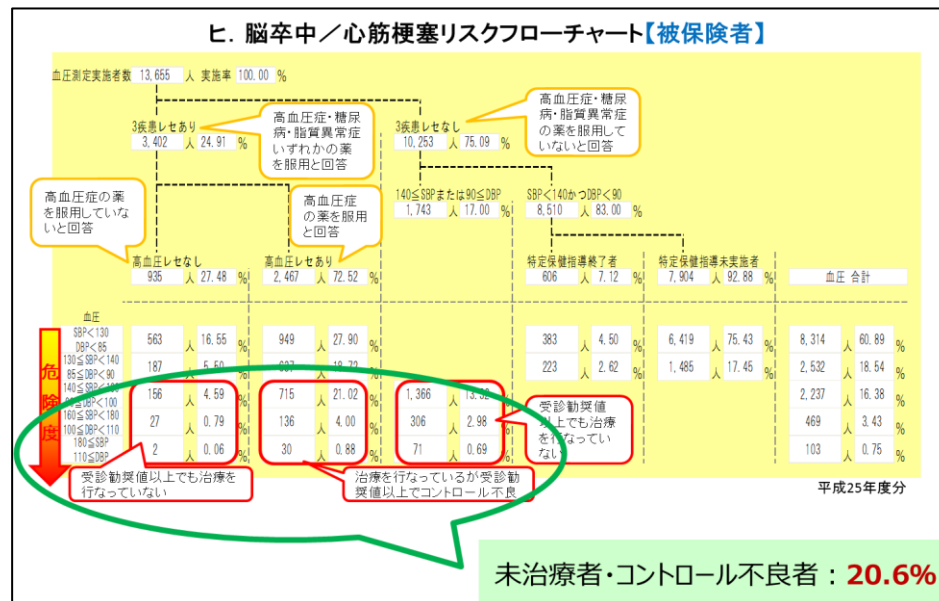
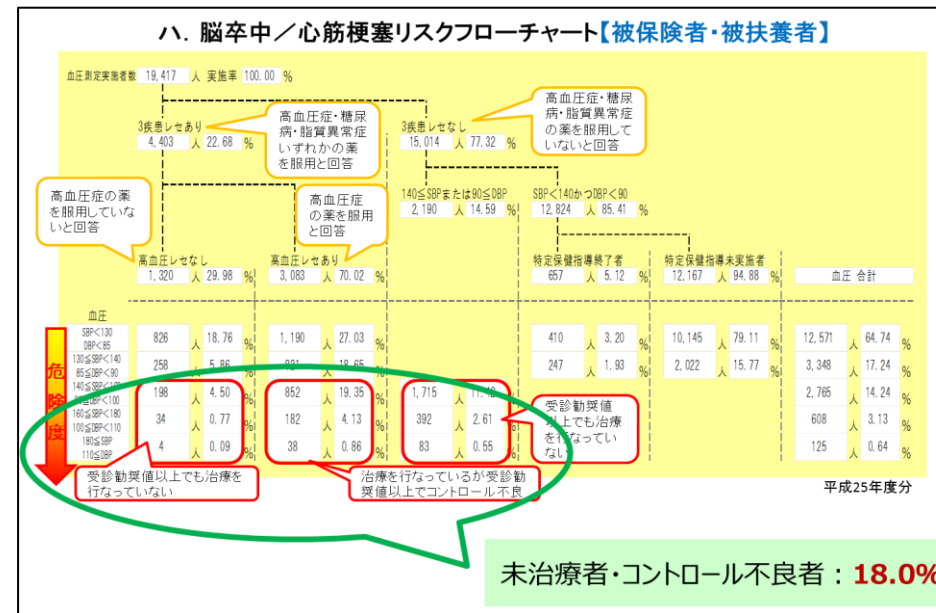
ヌ. 被保険者・被扶養者合計は、40歳代から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなっている。

ネ. 被保険者は、40歳代から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、**60歳代には約半分の者がすべての項目で保健指導基準値以上**になっている。

ノ. 被扶養者は、脂質について保健指導基準値以上の人数が多い。**50歳代には約半分の者が保健指導基準値以上**になっている。

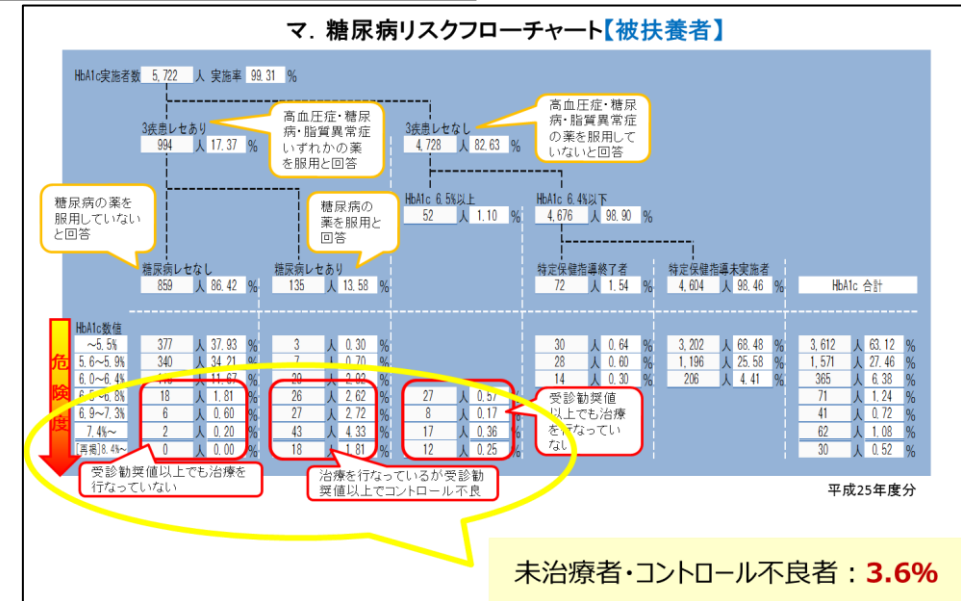
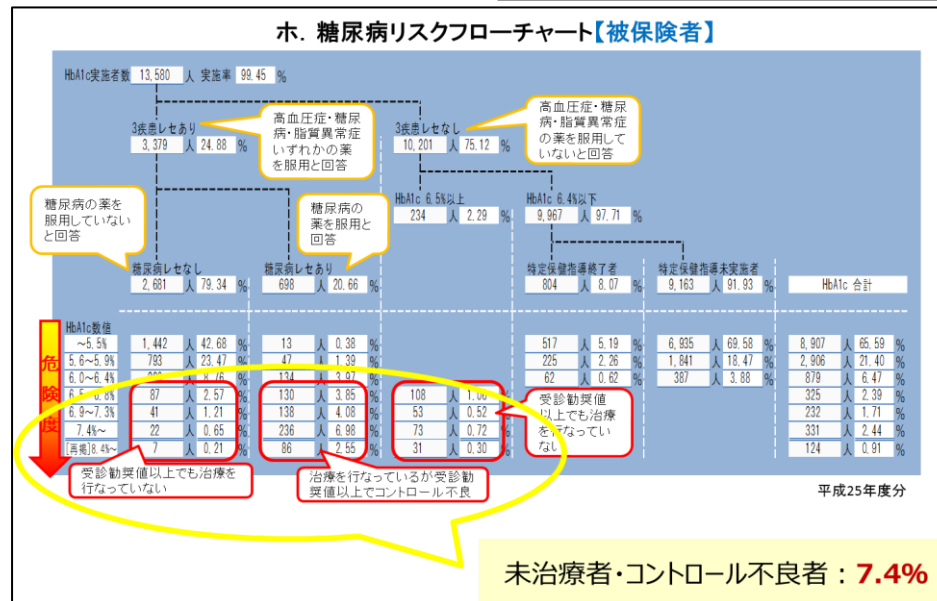
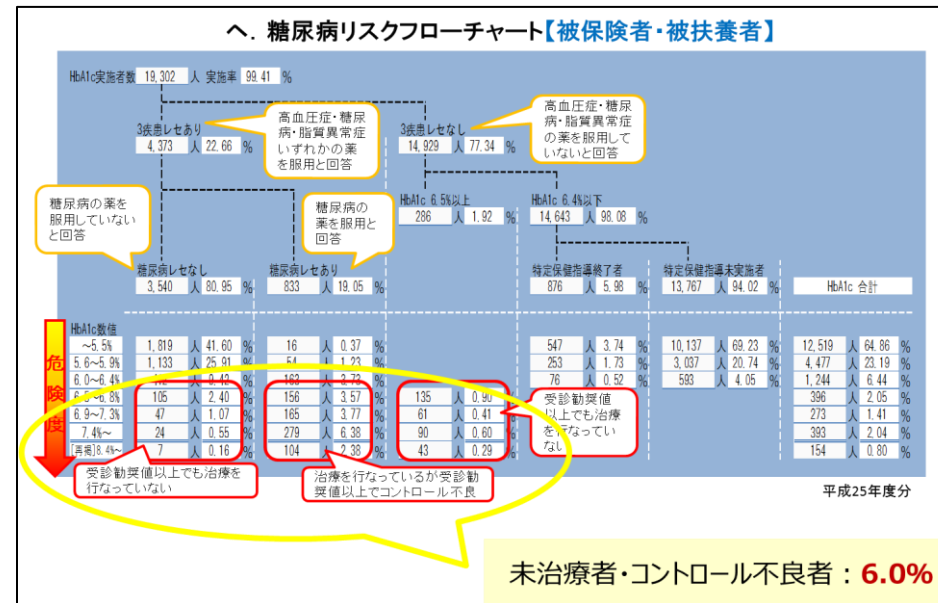
STEP 1 - 6 ④リスクの概要（平成25年度）

○脳卒中／心筋梗塞リスクフローチャート＜特定健診受診者＞



STEP 1 - 6 ④リスクの概要（平成25年度）

○糖尿病リスクフローチャート <特定健診受診者>



STEP 1 - 6 ④リスクの概要（平成25年度）

○メタボリック症候群・予備群の判定基準項目分布 ＜特定健診受診者＞

ミ. メタボリック症候群・予備群の判定基準項目分布【被保険者・被扶養者】				
特定健診対象者数	22,868			
特定健診受診者数(受診率)	19,413(84.9%)			
腹囲(男性)85cm以上・(女性)90cm以上者	7,144(36.8%)			
	高血糖	高血圧	高脂血	人 数
腹囲のみ				1,688(23.6%)
予備群	●			178 (2.5%)
		●		1,638(22.9%)
			●	920(12.9%)
該当者	●	●		494 (6.9%)
	●		●	183 (2.6%)
		●	●	1,404(19.7%)
	●	●	●	639 (8.9%)

ム. メタボリック症候群・予備群の判定基準項目分布【被保険者】				
特定健診対象者数	15,113			
特定健診受診者数(受診率)	13,654(90.3%)			
腹囲(男性)85cm以上・(女性)90cm以上者	6,008(44.0%)			
	高血糖	高血圧	高脂血	人 数
腹囲のみ				1,346(22.4%)
予備群	●			152 (2.5%)
		●		1,344(22.4%)
			●	807(13.4%)
該当者	●	●		427 (7.1%)
	●		●	155 (2.6%)
		●	●	1,211(20.2%)
	●	●	●	566 (9.4%)

メ. メタボリック症候群・予備群の判定基準項目分布【被扶養者】				
特定健診対象者数	7,755			
特定健診受診者数(受診率)	5,759(74.3%)			
腹囲(男性)85cm以上・(女性)90cm以上者	1,136(19.7%)			
	高血糖	高血圧	高脂血	人 数
腹囲のみ				342(30.1%)
予備群	●			26 (2.3%)
		●		294(25.9%)
			●	113 (9.9%)
該当者	●	●		67 (5.9%)
	●		●	28 (2.5%)
		●	●	193(17.0%)
	●	●	●	73 (6.4%)

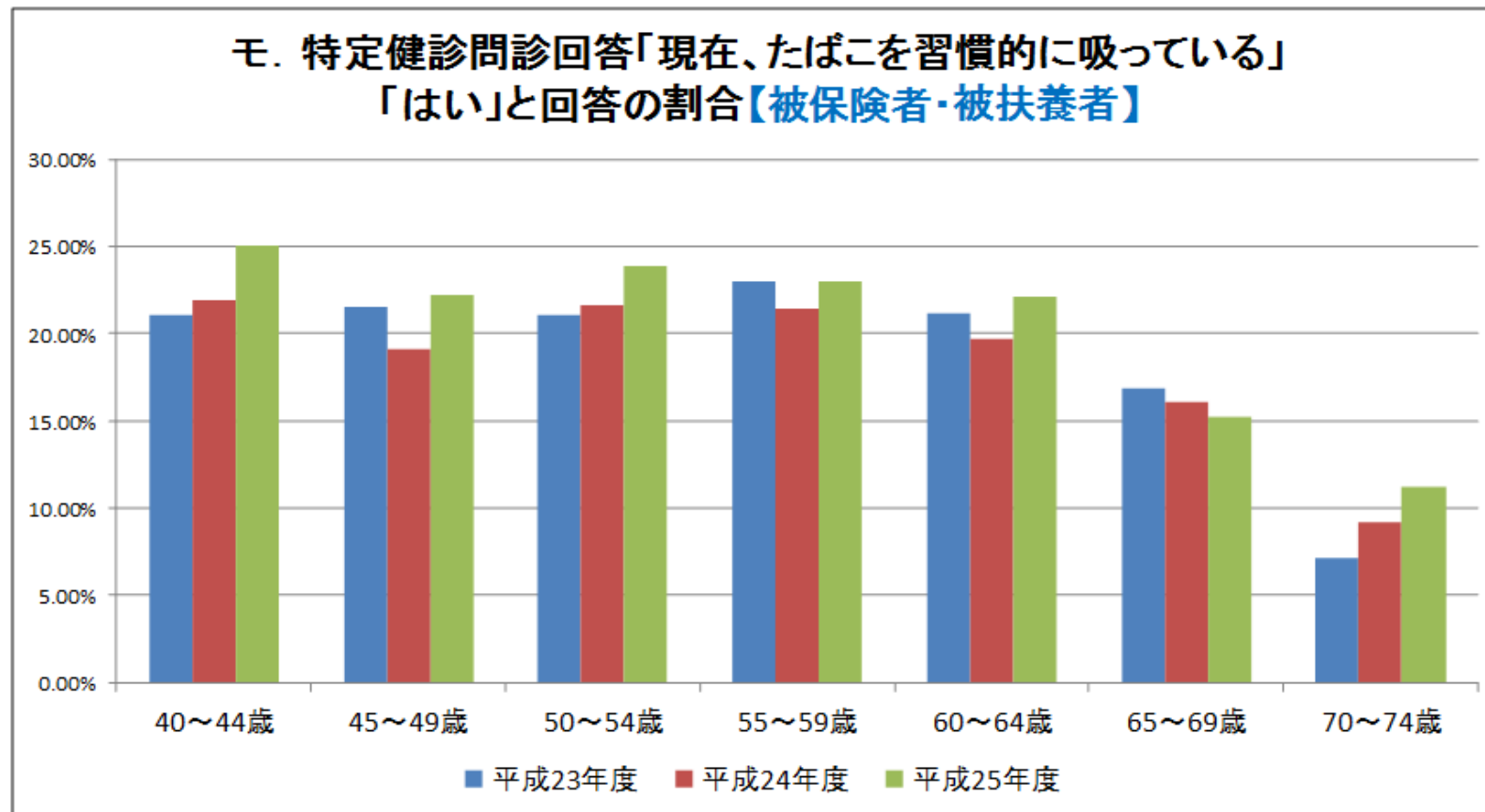
ミ. 特定健診受診者（被保険者・被扶養者）のうち、**36.8%が肥満**であり、なかでも**リスクが重なっている者が一定数（38.1%）存在**する。

ム. 被保険者は**44%が肥満**であり、そのなかでも**リスクが重なっている者が一定数（39.3%）存在**する。

メ. 被扶養者は**19.7%が肥満**であり、そのなかでも**リスクが重なっている者が一定数（31.8%）存在**する。

STEP 1 - 6 ④リスクの概要（平成25年度）

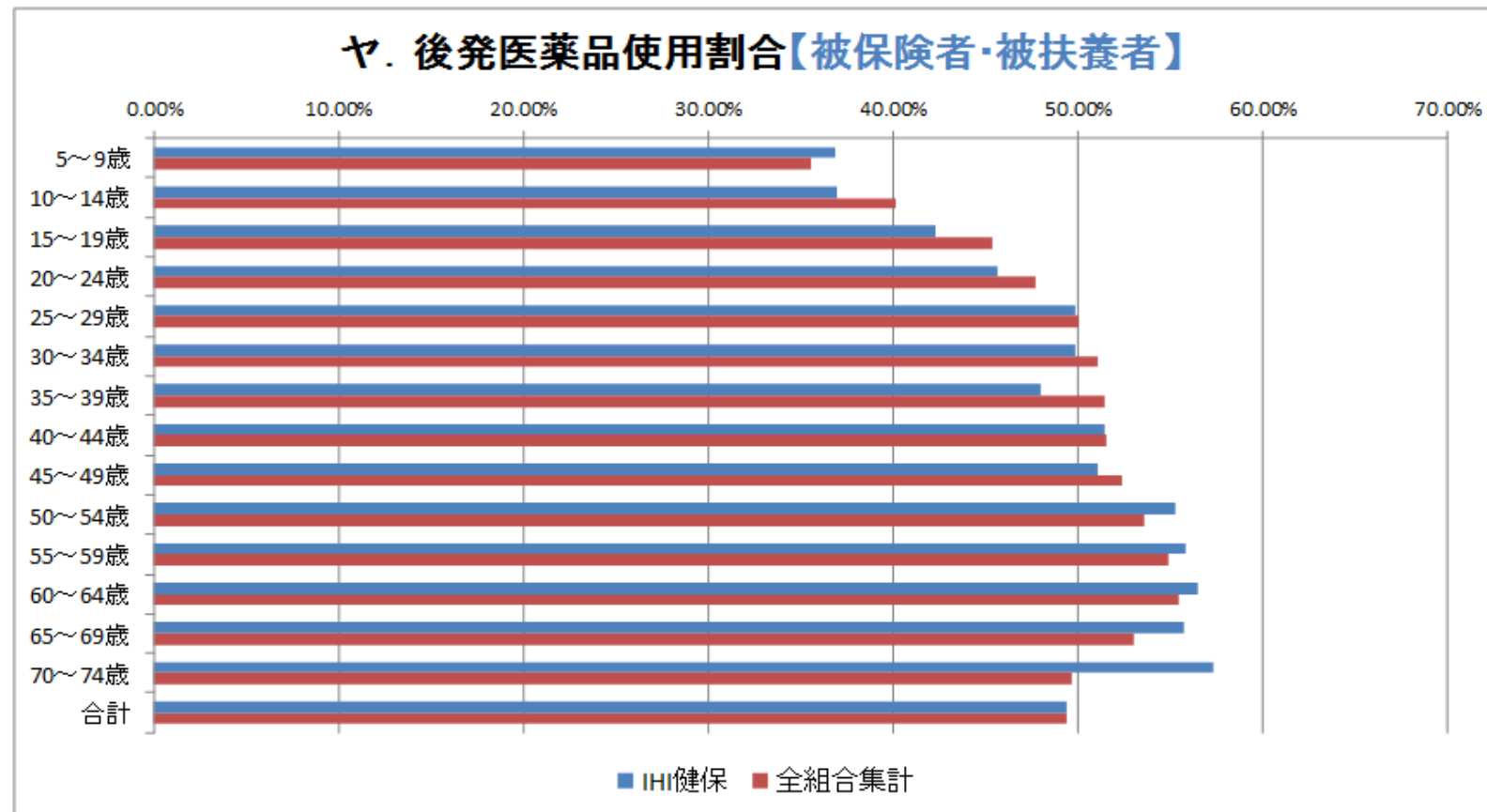
○年齢階層別 喫煙者の割合



モ. 65歳以上から減ってきているが、40歳代～60歳代前半については横ばいである。また、年々喫煙率も増加傾向であることから禁煙継続する人が少ないと推測される。

STEP 1 - 7 ⑤医療費の適正化（平成26年1月～12月診療分）

○後発医薬品使用割合



ヤ. 後発医薬品は全体的に他の健保と同等の使用割合であるが、若年層は低く、50歳代からは高い。

当健保では、平成23年度から後発医薬品のPRを目的とした「ジェネリック差額通知」を実施しており、その効果が徐々に現れている。

STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	イ, ウ, エ, オ	①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。	➔	①「内分泌・栄養・代謝疾患」や「循環器系疾患」は予防対策が可能であり、特定健診データからリスク者を特定可能なため、対策を検討していく。 ②「糖尿病」や「虚血性心疾患」は重症化して医療費に影響が大きいため、対策を講じる必要がある。血圧や血糖値などの受診勧奨値以上でリスクが高い者について、事業所との連携などを検討する。 ③引き続き後発医薬品の利用を推進する。	
2	ウ, エ	①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。	➔	①特に被保険者では、40歳になる前から健康意識を高め、行動変容を促す取り組みが必要である。若年層を含め、早い時期から生活習慣を改善することにより、健康増進をはかる。 ②重症化予防として、血圧や血糖値などの受診勧奨値以上でリスクが高い者について、事業所との連携などを検討する。 ③生活習慣病へ影響のある喫煙率が増加傾向にあることから、喫煙対策を検討する必要がある。	

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	- 被保険者は男女比率は、およそ男性:女性＝86:14であり、男性が多い。 - 約半数が母体企業に所属しており、事業主の拠点が全国に点在している。	➔	- 一人あたりの医療費は50歳代から上昇しており、加入者構成から、5～10年後に医療費増大する可能性が高い。 - 拠点が点在していることから、事業主と連携した対策を検討する必要がある。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	- 特定健診受診率は高く、特に被扶養者の特定健診受診率は70%台と高い。 - 特定保健指導の実施率も高めである。 - 被保険者の健康管理面で事業主との連携が弱い。 - 女性被保険者のがん予防事業は受診率は50%を超えている。	➔	- 保健事業の効果測定は、単年度や短い期間では測れない部分が多いため、長期目標を掲げることも必要である。 - リスクが高い者への対策には、事業主と連携できる体制が必要である。

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

- ・ヘルスリテラシーの向上
- ・医療費の適正化
- ・生活習慣病の重症化予防

事業全体の目標

- ・事業所への医療費データの提供による情報共有
- ・コラボヘルス体制の構築
- ・健康教室、健康相談の開催

事業の一覧

職場環境の整備	
1	医療費データ情報提供
加入者への意識づけ	
1	IHIグループ健康サポート健康教室
2	IHIグループ健康チャレンジキャンペーン
3	広報誌（Salu!）発行
4	ホームページ
個別の事業	
1	I H Iグループ総合健診 特定健診（被扶養者）
2	I H Iグループ総合健診 特定健診（被保険者）
3	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被保険者）
4	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被扶養者）
5	IHIグループ健康サポート個別サポート（被扶養者）
6	医療費通知
7	ジェネリック差額通知
8	IHIグループ総合健診 前立腺がん検査（被保険者）
9	人間ドック
10	自治体がん検査
11	電話健康相談
12	IHIグループ総合健診 基本健診＋選択できる検査（被扶養者）
13	IHIグループ総合健診 婦人科検査（被保険者） 選択できる検査（任意継続被保険者）
14	直営保養所
15	契約保養所

【保健事業の基盤】職場環境の整備

1	事業名	医療費データ情報提供			
健康課題との関連		①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。			
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 コラボヘルス（事業主との協働） 【概要】 加入者の疾病予防および健康づくりにつながる情報共有化し、事業主と協力関係を深める		
事業分類	1-ア				
新規・既存区分	新規	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員		
実施主体	3．健保組合と事業主との共同事業				
実施計画 (平成29年度)	継続				
事業目標					
アウトプット指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）1～2回／年の訪問					
アウトカム指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-					

【保健事業の基盤】加入者への意識づけ

1	事業名	IHIグループ健康サポート健康教室			
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。			
予算科目		特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】 ・ポピュレーションアプローチの一環として実施 ・自宅で簡単にできる運動を体験することで、日常生活に取り入れられそうなことを見つける 【概要】 ・テーマ：「笑顔あふれる90分　かんたん美姿勢ウォーキング」 ・健診結果に基づき、血圧・血糖・脂質のリスクがある方、運動習慣のない方、および希望者を対象として実施 ・11地区、13か所で開催 ・健保保健師による、地区の事情を踏まえた健康プチ講座を同時開催	
事業分類		-			
新規・既存区分		既存	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 女性 年齢 20～74 対象者分類 全員	
実施主体		1．健保組合			
実施計画 (平成29年度)		継続			
事業目標					
アウトプット指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-					
アウトカム指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-					

2	事業名	IHIグループ健康チャレンジキャンペーン		
健康課題との関連	①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。			
予算科目	特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】 ・ポピュレーションアプローチの一環として実施 ・要管理者だけではなく、リスクの低い人や若い世代を含めた全体に働きかけることで、健康への意識を高める 【概要】 あいさつ（必須）・食生活・運動・禁煙・リフレッシュなど、日常生活で実施できる11コースが記載されている冊子および記録表を配布、その中からあいさつ+2コース以上の合計3コース以上を選び、生活習慣の改善に取り組む また、これまで被保険者のみ対象としていたが、トライアルとして被扶養者も対象にいれ実施した。	
事業分類	-			

新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	18～74	対象者分類	全員
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業											
実施計画 (平成29年度)	継続											
事業目標												
アウトプット指標			-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）参加事業所の拡大（平成26年度参加会社30社／54社）									
アウトカム指標			-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-									

3	事業名	広報誌（Salu!）発行			
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 健康保険制度や健保事業の情報発信		
事業分類	-		【概要】 事業運営方針、健保法改正の内容および健康診断の大切さや健康増進に繋がる情報等を分かりやすくPRする。 発行：年3回（春・秋・冬）		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員		
実施主体	1．健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				
事業目標					
アウトプット指標 -（【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-） -					
アウトカム指標 -（【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-） -					

4	事業名	ホームページ			
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 健康保険制度や健保事業の情報発信		
事業分類	-		【概要】 加入者への情報提供ツールとして活用		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員		
実施主体	1. 健保組合				

実施計画 (平成29年度)	継続
事業目標	
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) -
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) -

【個別の事業】

1	事業名	ＩＨＩグループ総合健診 特定健診（被扶養者）			
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。			
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症等）の発症、重症化や合併症への進行予防		
事業分類	3-ア		【概要】 巡回方式と指定医療機関方式の選択制で実施		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員		
実施主体	1．健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				
事業目標					
アウトプット指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）受診率77％（平成25年度75％）					
アウトカム指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-					

2	事業名	IHIグループ総合健診 特定健診（被保険者）			
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。			
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症等）の発症、重症化や合併症への進行予防 【概要】 事業主が実施する定期健診に、特定健診項目を付加して実施（任意継続被保険者を除く）		
事業分類	3-ア				
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員		
実施主体	3．健保組合と事業主との共同事業				
実施計画 (平成29年度)	継続				
事業目標					

アウトプット指標	-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）受診率97%（平成25年度91%）
アウトカム指標	-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-

3	事業名	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被保険者）									
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。									
予算科目		特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】 特定健診の結果により、健康の保持増進に努める必要があると判定された場合、特定健康診査等実施計画に定めた内容に基づき、動機づけ支援・積極的支援を実施 【概要】 ・事業主および外部専門業者へ委託して実施 ・対象者はリスト化して、事業主および外部専門業者へ定期的に送付							
事業分類		4-ア									
新規・既存区分		既存(法定)	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 基準該当者							
実施主体		3．健保組合と事業主との共同事業									
実施計画 (平成29年度)		継続									
事業目標											
アウトプット指標		-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）実施率60％（平成25年度30％）									
アウトカム指標		-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-									

4	事業名	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被扶養者）		
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。		
予算科目	特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】 特定健診の結果により、健康の保持増進に努める必要があると判定された場合、特定健康診査等実施計画に定めた内容に基づき、動機づけ支援・積極的支援を実施 【概要】 ・健保の保健師および外部専門業者へ委託して実施	
事業分類	4-ア			

新規・既存区分	既存	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 -							
実施主体	1．健保組合									
実施計画 (平成29年度)	継続									
事業目標										
アウトプット指標			-（【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-） -							
アウトカム指標			-（【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-） -							

5	事業名	IHIグループ健康サポート個別サポート（被扶養者）									
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。									
予算科目		特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】 健診結果に基づく個別支援を中心にして、対象者の多様な生活実態や健康意識に向き合い、当組合独自の手法を取り入れて実施 【概要】 ・健保の保健師および外部専門業者へ委託して実施 （アプローチ方法） 文書、電話、面談、メール等							
事業分類		4-イ, 6									
新規・既存区分		既存	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 20～74 対象者分類 基準該当者							
実施主体		1．健保組合									
実施計画 (平成29年度)		継続									
事業目標											
アウトプット指標		-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-									
アウトカム指標		-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-									

6 事業名		医療費通知
健康課題との関連		①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。

予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 医療費に関する意識向上														
事業分類	5-ウ		【概要】 通知内容：医療機関名、支払った医療費等 発行：年2回														
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者		対象事業所	全て		性別	男女		年齢	0～74		対象者分類	全員	
実施主体	1．健保組合																
実施計画 (平成29年度)	継続																
事業目標																	
アウトプット指標			-（【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-）事業主経由で送付														
アウトカム指標			-（【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-） -														

7	事業名	ジェネリック差額通知											
健康課題との関連		①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。											
予算科目		保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 ・医療費に関する意識向上 ・ジェネリック医薬品への切り替え促進 【概要】 通知内容： ・新薬との差額 発行： ・年1回（3月）									
事業分類		8-ウ											
新規・既存区分		既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	0～74	対象者分類	基準該当者
実施主体		1．健保組合											
実施計画 (平成29年度)		継続											
事業目標													

アウトプット指標	-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）基準該当者全員に自宅直送
アウトカム指標	-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）効果測定および使用実態分析を踏まえて検討

8	事業名	IHIグループ総合健診 前立腺がん検査（被保険者）			
健康課題との関連		①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。			
予算科目		疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 ・疾病の早期発見と早期治療 ・検査項目：前立腺がん 【概要】 ・事業主が実施する定期健診と同時実施 ・検査結果は自宅直送	
事業分類		3-イ			
新規・既存区分		既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男性 年齢 50～74 対象者分類 全員	
実施主体		3．健保組合と事業主との共同事業			
実施計画 (平成29年度)		継続			
事業目標					
アウトプット指標		-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）受診率78．0％（平成25年度77．5％）			
アウトカム指標		-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-			

9 事業名		人間ドック		
健康課題との関連		該当なし		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 総合健診の補完的役割として、基本健診のほかオプション検査（脳ドック、婦人科など）についても、全国の健康保険取扱い医療機関で受診した場合、費用の一部を補助する。 【概要】 費用の70%（含む消費税）を補助する。ただし、補助の限度額は年度内26,000円（含む消費税）とする。	
事業分類	3-オ			
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員	
実施主体	1. 健保組合			

実施計画 (平成29年度)	継続
事業目標	
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) -
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) -

10	事業名	自治体がん検査									
健康課題との関連		①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。									
予算科目		疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 総合健診の「選択できる検査」と同じ検査項目の自治体がん検査を受診した場合、費用の全額を補助する。							
事業分類		3-イ		【概要】 受診費用の全額を補助							
新規・既存区分		既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 20～74 対象者分類 全員							
実施主体		1. 健保組合									
実施計画 (平成29年度)		継続									
事業目標											
アウトプット指標		-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-									
アウトカム指標		-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-									

11	事業名	電話健康相談			
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 健康管理充実の一助として、電話やインターネットで気軽に心身の健康や医療について相談できる窓口として設置 【概要】 「健康相談（海外対応）」、「メンタルヘルスカウンセリング」、「ベストドクターの受診案内」等、単なる健康情報の提供だけでなく、メンタル・医療機関情報・育児・介護相談等、幅広く相談できるサービス体制		
事業分類	6				
新規・既存区分	既存		対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員	
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				

事業目標	
アウトプット指標	-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-
アウトカム指標	-（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-

12	事業名	IHIグループ総合健診 基本健診＋選択できる検査（被扶養者）				
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。				
		①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】			資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 20～74 対象者分類 基準該当者
			・疾病の早期発見と早期治療			
		・基本健診の検査項目は特定健診に準ずる。				
		・選択できる検査：肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん、骨密度、B型C型肝炎				
		【概要】				
事業分類	3-ア, 3-イ		巡回方式と指定医療機関方式の選択制で実施			
新規・既存区分	既存	対象者				
実施主体	1. 健保組合					
実施計画 (平成29年度)	継続					
事業目標						
アウトプット指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）受診率69.2％（平成25年度66.9％）						
アウトカム指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-						

13	事業名	IHIグループ総合健診 婦人科検査（被保険者） 選択できる検査（任意継続被保険者）			
----	-----	---	--	--	--

健康課題との関連	①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。		
	①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 ・ 疾病の早期発見と早期治療 ・ 検査項目：乳がん、子宮がん、骨密度、B型C型肝炎
事業分類	3-ア, 3-イ		【概要】 巡回方式と指定医療機関方式の選択制で実施
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 20 ～ 74 対象者分類 基準該当者
実施主体	1．健保組合		
実施計画 (平成29年度)	継続		
事業目標			
アウトプット指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）受診率59．4％（平成25年度56．1％）			
アウトカム指標 -（【実績値】-【目標値】平成29年度：-）-			

14	事業名	直営保養所									
健康課題との関連		該当なし									
予算科目		直営保養所	事業の目的 および概要	【目的】 ・リフレッシュ ・研修・コミュニケーション ・健康増進 【概要】 被保険者および被扶養者の保養							
事業分類		8-イ									
新規・既存区分		既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員							
実施主体		1. 健保組合									
実施計画 (平成29年度)		継続									
事業目標											

アウトプット指標 - (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) -

アウトカム指標 - (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) -

15	事業名	契約保養所			
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	その他	事業の目的 および概要	【目的】 ・リフレッシュ ・研修・コミュニケーション ・健康増進 【概要】 被保険者および被扶養者の保養		
事業分類	8-イ				
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員		
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				
事業目標					
アウトプット指標 - (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) -					
アウトカム指標 - (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) -					

STEP 4 - 1 事業報告

事業の一覧

職場環境の整備

- | | |
|---|------------|
| 1 | 医療費データ情報提供 |
|---|------------|

加入者への意識づけ

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | IHIグループ健康サポート健康教室 |
| 2 | IHIグループ健康チャレンジキャンペーン |
| 3 | 広報誌（Salu!）発行 |
| 4 | ホームページ |

個別の事業

- | | |
|----|---|
| 1 | I H I グループ総合健診 特定健診（被扶養者） |
| 2 | I H I グループ総合健診 特定健診（被保険者） |
| 3 | IHIグループ健康サポート特定保健指導（被保険者） |
| 4 | IHIグループ健康サポート特定保健指導（被扶養者） |
| 5 | IHIグループ健康サポート個別サポート（被扶養者） |
| 6 | 医療費通知 |
| 7 | ジェネリック差額通知 |
| 8 | IHIグループ総合健診 前立腺がん検査（被保険者） |
| 9 | 人間ドック |
| 10 | 自治体がん検査 |
| 11 | 電話健康相談 |
| 12 | IHIグループ総合健診 基本健診＋選択できる検査（被扶養者） |
| 13 | IHIグループ総合健診 婦人科検査（被保険者） 選択できる検査（任意継続被保険者） |
| 14 | 直営保養所 |
| 15 | 契約保養所 |

【保健事業の基盤】職場環境の整備

1事業名	医療費データ情報提供				
健康課題との関連	①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。				
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 コラボヘルス（事業主との協働） 【概要】 加入者の疾病予防および健康づくりにつながる情報共有化し、事業主と協力関係を深める		
事業分類	1-ア				
新規・既存区分	新規	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員		
実施主体	3．健保組合と事業主との共同事業				
実施計画 (平成29年度)	継続				
振り返り	実施状況・時期 適用事業所47社78事業所に対し、医療費データ情報提供を実施。 在籍者数200人以上の事業所は、該当事業所単独データとIHIグループ全体データを提供 その他の事業所は、IHIグループ全体データのみ提供				
	成功・推進要因 医療費データ情報提供は2回目であり、事業所担当者への説明は初回に比べスムーズに説明できた。				
	課題及び阻害要因 ・個人の特定を避けるため、提供する医療費データが限定される。（当組合は、200名以上の事業所が対象）				
予算額	-千円	決算額	0千円	評価	4．80%以上
事業目標					
アウトプット指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）1～2回／年の訪問[-]			
アウトカム指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]			

【保健事業の基盤】加入者への意識づけ

1	事業名		IHIグループ健康サポート健康教室					
健康課題との関連			①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。					
予算科目			特定保健指導事業		事業の目的 および概要	【目的】 ・ポピュレーションアプローチの一環として実施 ・自宅で簡単にできる運動を体験することで、日常生活に取り入れられそうなことを見つける		
事業分類			-			【概要】 ・テーマ：「笑顔あふれる90分　かんたん美姿勢ウォーキング」 ・健診結果に基づき、血圧・血糖・脂質のリスクがある方、運動習慣のない方、および希望者を対象として実施 ・11地区、13か所で開催 ・健保保健師による、地区の事情を踏まえた健康プチ講座を同時開催		
新規・既存区分			既存		対象者	資格　被扶養者　対象事業所　全て　性別　女性　年齢　20～74　対象者分類　全員		
実施主体			1．健保組合					
実施計画 (平成29年度)			継続					
振り返り			実施状況・時期　計9会場、参加者数：87名 成功・推進要因　・参加者の満足度は高い（アンケート結果より） ・健康プチ講座では、生活習慣病や家族を含めた食事・運動等への関心が高まるよう働きかけた ・開催できない地域、参加できない加入者への情報提供を目的として、機関紙やホームページで教室の内容を紹介した 課題及び阻害要因　テーマの選択					
予算額			- 千円		決算額	483 千円	評価	4．80%以上
事業目標								
アウトプット指標			-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-　【達成度】-%）-[-]					
アウトカム指標			-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-　【達成度】-%）-[-]					

2	事業名	IHIグループ健康チャレンジキャンペーン				
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。				

予算科目	特定保健指導事業		事業の目的 および概要	【目的】 ・ポピュレーションアプローチの一環として実施 ・要管理者だけではなく、リスクの低い人や若い世代を含めた全体に働きかけることで、健康への意識を高める 【概要】 あいさつ（必須）・食生活・運動・禁煙・リフレッシュなど、日常生活で実施できる11コースが記載されている冊子 および記録表を配布、その中からあいさつ＋2コース以上の合計3コース以上を選び、生活習慣の改善に取り組む また、これまで被保険者のみ対象としていたが、トライアルとして被扶養者も対象にいれ実施した。											
事業分類	-			対象者	資格	被保険者・被扶養者		対象事業所	全て	性別	男女	年齢	18 ～ 74	対象者分類	全員
新規・既存区分	既存														
実施主体	３．健保組合と事業主との共同事業														
実施計画 (平成29年度)	継続														
振り返り	実施状況・時期		被保険者 参加会社：43社 A 対象者数：25,801名 B 参加者数：16,930名 B/A 参加率：65.6％ C 達成者数：12,571名 C/A 達成率：48.7％ C/B 達成率：74.3％ 被扶養者 参加会社：28社 A 対象者数：6,660名 B 参加者数：591名 B/A 参加率：8.9％ C 達成者数：447名 C/A 達成率：6.7％ C/B 達成率：75.6％												
	成功・推進要因		・ＷＥＢ導入による参加奨励を実施 ・会議や打ち合わせ時に、参加会社の担当者が声かけを実施 ・結果の分析とフィードバック ・苦労した点、改善点等について、担当者や参加者アンケートから次年度の企画に反映 ・達成賞の配布												
	課題及び阻害要因		・魅力あるコースづくり ・チャレンジ期間終了後も、健康意識の高まりや取り組みが継続できるか ・初めてのＷＥＢ導入で課題が多かったため、今後に生かしていく。 ・紙参加とＷＥＢ参加の併用により、運用における複雑さが残った。												
予算額	- 千円		決算額	9,403 千円		評価	３．60%以上								
事業目標															

アウトプット指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-【達成度】-%）参加事業所の拡大（平成26年度参加会社30社／54社）[-]
アウトカム指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-【達成度】-%）-[-]

3事業名	広報誌（Salu!）発行				
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 健康保険制度や健保事業の情報発信		
事業分類	-		【概要】 事業運営方針、健保法改正の内容および健康診断の大切さや健康増進に繋がる情報等を分かりやすくPRする。 発行：年3回（春・秋・冬）		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員		
実施主体	1．健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				
振り返り	実施状況・時期 被保険者の自宅に送付（4月末、9月末、12月末）				
	成功・推進要因 ・タイムリーな情報提供により、健保事業の周知に寄与 ・読者目線に立った内容とするため、ほとんどの記事を健保職員が作成				
	課題及び阻害要因 読んでもらえるための誌面づくり				
予算額	-千円	決算額	14,934千円	評価	5．100%
事業目標					
アウトプット指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]				
アウトカム指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]				

4 事業名	ホームページ				
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 健康保険制度や健保事業の情報発信		
事業分類	-		【概要】 加入者への情報提供ツールとして活用		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員		
実施主体	1．健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				

振り返り	実施状況・時期					・ 随時更新 ・ 迅速な更新とタイムリーな情報提供
	成功・推進要因					－
	課題及び阻害要因					・ ホームページ利用者の拡大（サイト誘導施策） ・ 定期的に利用できるコンテンツの提供
予算額	- 千円		決算額	899 千円	評価	4．80%以上
事業目標						
アウトプット指標		-（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%） -[-]				
アウトカム指標		-（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%） -[-]				

【個別の事業】

1	事業名	ＩＨＩグループ総合健診 特定健診（被扶養者）				
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。				
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症等）の発症、重症化や合併症への進行予防			
事業分類	3-ア		【概要】 巡回方式と指定医療機関方式の選択制で実施			
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員			
実施主体	１．健保組合					
実施計画 (平成29年度)	継続					
振り返り	実施状況・時期 対象者数：8,138名 受診者数：6,098名 受診率：74.9％ （目標70％キープ）					
	成功・推進要因 ・案内の自宅発送 ・申込み回答書返送方式により、申込み受付を自前で実施。これにより申込み状況を把握し、受診勧奨策を展開できた。 ・未回答者への案内再送付 ・電話による受診奨励 ・託児コーナーの設置（一部会場） ・対象年齢を満たす場合は、自己負担なし					
	課題及び阻害要因 ・未回答者への対応 ・地域により指定医療機関の数にバラつきがある。					
予算額	- 千円	決算額	120,093 千円		評価	５．100%
事業目標						
アウトプット指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）受診率 77％（平成25年度75％） [-]				
アウトカム指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%） [-]				

2	事業名	ＩＨＩグループ総合健診 特定健診（被保険者）				
---	-----	------------------------	--	--	--	--

健康課題との関連	①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。				
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症等）の発症、重症化や合併症への進行予防 【概要】 事業主が実施する定期健診に、特定健診項目を付加して実施（任意継続被保険者を除く）		
事業分類	3-ア				
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員		
実施主体	3．健保組合と事業主との共同事業				
実施計画 (平成29年度)	継続				
振り返り	実施状況・時期 対象者数：15,503名 受診者数：14,467名 受診率：93.3% （目標100%） 成功・推進要因 － 課題及び阻害要因 健診結果は、事業主との契約に基づき電子データで授受しているが、一部の事業所は紙データによる授受となっている。				
予算額	- 千円	決算額	0 千円	評価	4．80%以上
事業目標					
アウトプット指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）受診率97％（平成25年度91％）[-]				
アウトカム指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）[-]				

3	事業名	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被保険者）		
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。		
予算科目		特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】 特定健診の結果により、健康の保持増進に努める必要があると判定された場合、特定健康診査等実施計画に定めた内容に基づき、動機づけ支援・積極的支援を実施
事業分類		4-ア		【概要】 ・事業主および外部専門業者へ委託して実施 ・対象者はリスト化して、事業主および外部専門業者へ定期的に送付

新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格	被保険者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	40 ～ 74	対象者分類	基準該当者	
実施主体	3．健保組合と事業主との共同事業												
実施計画 (平成29年度)	継続												
振り返り	実施状況・時期		【動機付け支援】 ・対象者数：1,313名 ・終了者数：支援継続中 ・実施率：支援継続中 【積極的支援】 ・対象者数：1,873名 ・終了者数：支援継続中 ・実施率：支援継続中										
	成功・推進要因		・事業主の協力により、就業時間中に実施										
	課題及び阻害要因		・初回面談から6ヵ月後評価まで継続させること										
予算額	- 千円		決算額	8,519 千円								評価	-
事業目標													
アウトプット指標		-（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%）実施率 6 0 %（平成 2 5 年度 3 0 %） [-]											
アウトカム指標		-（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%） [-]											

4	事業名	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被扶養者）										
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。										
予算科目		特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】								
事業分類		4-ア		特定健診の結果により、健康の保持増進に努める必要があると判定された場合、特定健康診査等実施計画に定めた内容に基づき、動機づけ支援・積極的支援を実施 【概要】 ・健保の保健師および外部専門業者へ委託して実施								
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	40～74	対象者分類	-
実施主体	1. 健保組合											
実施計画 (平成29年度)	継続											

振り返り	実施状況・時期		【動機付け支援】 ・対象者数：418名 ・終了者数：支援継続中 ・実施率：支援継続中 （目標26%） 【積極的支援】 ・対象者数：130名 ・終了者数：支援継続中 ・実施率：支援継続中 [任継者含む]		
	成功・推進要因		・案内の自宅発送および電話連絡 ・案内電話の外部委託（休日等） ・健保保健師による巡回健診会場での健康相談 ・保健指導を希望しない方にも、電話連絡および関連資料を送付する等、定期的にフォローする		
	課題及び阻害要因		生活習慣改善に対する理解を深める		
	予算額	- 千円	決算額	3,900 千円	評価 -
事業目標					
アウトプット指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]			
アウトカム指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]			

5	事業名				
	IHIグループ健康サポート個別サポート（被扶養者）				
健康課題との関連	①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。				
予算科目	特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】 健診結果に基づく個別支援を中心にして、対象者の多様な生活実態や健康意識に向き合い、当組合独自の手法を取り入れて実施 【概要】 ・健保の保健師および外部専門業者へ委託して実施 （アプローチ方法） 文書、電話、面談、メール等		
事業分類	4-イ,6				
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 20～74 対象者分類 基準該当者		
実施主体	1. 健保組合				

実施計画 (平成29年度)	継続				
振り返り	実施状況・時期 対象者数：201名 初回アプローチ実施者数：123名 実施率：61.2% 成功・推進要因 ・案内の自宅発送および電話連絡 ・案内電話の外部委託（休日等） ・健保保健師による巡回健診会場での健康相談 ・保健指導を希望しない方にも、電話連絡および関連資料を送付する等、定期的にフォローする 課題及び阻害要因 ・生活習慣改善に対する理解を深める				
予算額	- 千円	決算額	0 千円	評価	3 . 60%以上
事業目標					
アウトプット指標 -（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]					
アウトカム指標 -（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]					

6 事業名		医療費通知		
健康課題との関連	①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 医療費に関する意識向上	
事業分類	5-ウ		【概要】 通知内容：医療機関名、支払った医療費等 発行：年2回	
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員	
実施主体	1．健保組合			
実施計画 (平成29年度)	継続			

振り返り	実施状況・時期		事業主経由で配布 発行回数：2回（9月、2月）／年 発行枚数：9月 37,557枚 2月 29,742枚		
	成功・推進要因		・年2回の発行で、加入者の保管面でも紛失のリスクが減った。 ・医療費通知の見方や確認ポイントを機関誌でPR		
	課題及び阻害要因		通知目的の周知（如何に自身の医療費を意識してもらうか）		
予算額	- 千円	決算額	480 千円	評価	4 . 80%以上
事業目標					
アウトプット指標 -（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）事業主経由で送付[-]					
アウトカム指標 -（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]					

7事業名	ジェネリック差額通知				
健康課題との関連	①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 ・医療費に関する意識向上 ・ジェネリック医薬品への切り替え促進		
事業分類	8-ウ		【概要】 通知内容： ・新薬との差額 発行： ・年1回（3月）		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 基準該当者		
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				

振り返り	実施状況・時期		H28年度実施状況 ・実施月：H29年3月 ・対象者：2,896名 ・切替率：53.6% H29年度実施状況 ・実施月：H30年3月 ・対象者：3,578名 ・効果測定は、H30年9月頃を予定 自宅直送			
	成功・推進要因		・がん、精神疾患を除く、全ての疾病を対象 ・切替による軽減可能額300円以上/月			
	課題及び阻害要因		通知内容（情報）の見直しを検討し、より関心を持ってもらえる情報を提供			
	予算額	- 千円	決算額	1,620 千円	評価	5 . 100%
	事業目標					
アウトプット指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）基準該当者全員に自宅直送[-]				
アウトカム指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）効果測定および使用実態分析を踏まえて検討[-]				

8	事業名	IHIグループ総合健診 前立腺がん検査（被保険者）										
健康課題との関連		①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。										
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 ・疾病の早期発見と早期治療 ・検査項目：前立腺がん									
事業分類	3-イ		【概要】 ・事業主が実施する定期健診と同時実施 ・検査結果は自宅直送									
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者	対象事業所	全て	性別	男性	年齢	50～74	対象者分類	全員
実施主体	3．健保組合と事業主との共同事業											
実施計画 (平成29年度)	継続											

振り返り	実施状況・時期	対象者数：7,012名 受診者数：5,423名 受診率：77.3%			
	成功・推進要因	・事業主の協力により、定期健康診断時に実施（採血した血液を利用） ・対象年齢を満たす場合は、自己負担なし			
	課題及び阻害要因	課題 ①結果が通常の健診結果とは別に自宅に郵送される ②希望者は申込み用紙の記載が必要			
予算額	- 千円	決算額	10,983 千円	評価	5 . 100%
事業目標					
アウトプット指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）受診率 7 8 . 0 %（平成 2 5 年度 7 7 . 5 %） [-]				
アウトカム指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%） [-]				

9 事業名		人間ドック			
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 総合健診の補完的役割として、基本健診のほかオプション検査（脳ドック、婦人科など）についても、全国の健康保険 取扱い医療機関で受診した場合、費用の一部を補助する。		
事業分類	3-オ		【概要】 費用の70％（含む消費税）を補助する。ただし、補助の限度額は年度内26,000円（含む消費税）とする。		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員		
実施主体	1．健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				
振り返り	実施状況・時期		受診者数 被保険者：500名 被扶養者：103名		
	成功・推進要因		・年齢制限が無い ・健康保険取扱い医療機関であれば、どこでも受診できる ・I H I グループ総合健診に含まれない検査を希望するニーズに対応できる		
	課題及び阻害要因		・リピーターが多い		
予算額	- 千円	決算額	11,825 千円		評価 -
事業目標					
アウトプット指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%） -[-]			
アウトカム指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%） -[-]			

10	事業名		自治体がん検査				
健康課題との関連			①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。				
予算科目		疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 総合健診の「選択できる検査」と同じ検査項目の自治体がん検査を受診した場合、費用の全額を補助する。 【概要】 受診費用の全額を補助			
事業分類		3-イ					
新規・既存区分		既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 20～74 対象者分類 全員			
実施主体		1．健保組合					
実施計画 (平成29年度)		継続					
振り返り		実施状況・時期 利用者数 被保険者：4名 被扶養者：4名 成功・推進要因 受診者の利便性の向上 課題及び阻害要因 ・自己負担額が少ないケースが多く、申請率が低い					
予算額		- 千円	決算額	33 千円		評価	-
事業目標							
アウトプット指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]					
アウトカム指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]					

11	事業名	電話健康相談			
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 健康管理充実の一助として、電話やインターネットで気軽に心身の健康や医療について相談できる窓口として設置		
事業分類	6		【概要】 「健康相談（海外対応）」、「メンタルヘルスカウンセリング」、「ベストドクターの受診案内」等、単なる健康情報の提供だけではなく、メンタル・医療機関情報・育児・介護相談等、幅広く相談できるサービス体制		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員		
実施主体	1．健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				

振り返り	実施状況・時期		利用者数 電話健康相談：1,024件 メンタル電話相談：268件 メンタルカウンセリング：40件			
	成功・推進要因		・全国162カ所にカウンセリングルームを設置 ・プライバシー完全厳守 ・専門家のアドバイスにより、健康に関する様々な不安や心配を解消することができる ・全国162カ所にカウンセリングルームを設置 ・プライバシーの完全厳守			
	課題及び阻害要因		効果測定ができない			
	予算額		- 千円	決算額	4,283 千円	評価
事業目標						
アウトプット指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-【達成度】-%）-[-]				
アウトカム指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-【達成度】-%）-[-]				

12	事業名	IHIグループ総合健診 基本健診＋選択できる検査（被扶養者）			
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。 ①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。			
予算科目		疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】	
事業分類		3-ア,3-イ		・疾病の早期発見と早期治療 ・基本健診の検査項目は特定健診に準ずる。 ・選択できる検査：肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん、骨密度、B型C型肝炎 【概要】 巡回方式と指定医療機関方式の選択制で実施	
新規・既存区分		既存	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 20～74 対象者分類 基準該当者	
実施主体		1. 健保組合			
実施計画 (平成29年度)		継続			

振り返り	実施状況・時期		対象者数：10,083名 受診者数：7,452名 受診率：73.9% (目標70%キープ)			
	成功・推進要因		[任継者含む] ・案内の自宅発送 ・申込み回答書返送方式により、申込み受付を自前で実施。これにより申込み状況を把握し、受診奨励策を展開できた。 ・未回答者への案内再送付 ・電話による受診奨励 ・託児コーナーの設置（一部会場） ・対象年齢を満たす場合は、自己負担なし			
	課題及び阻害要因		・未回答者への対応 ・地域により指定医療機関の数にバラつきがある			
予算額	- 千円		決算額	201,965 千円	評価	5 . 100%
事業目標						
アウトプット指標		-（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%）受診率 69 . 2 %（平成25年度 66 . 9 %） [-]				
アウトカム指標		-（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%） [-]				

13	事業名	IHIグループ総合健診 婦人科検査（被保険者） 選択できる検査（任意継続被保険者）			
健康課題との関連		①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。			
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】		
事業分類	3-ア,3-イ		・疾病の早期発見と早期治療 ・検査項目：乳がん、子宮がん、骨密度、B型C型肝炎 【概要】 巡回方式と指定医療機関方式の選択制で実施		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者	対象事業所 全て	性別 男女
実施主体	1. 健保組合		年齢 20 ～ 74	対象者分類 基準該当者	

実施計画 (平成29年度)	継続				
振り返り	実施状況・時期	女性被保険者 対象者数：4,383名 受診者数：2,415名 受診率：55.1%			
		任意継続被保険者 対象者数：786名 受診者数：614名 受診率：78.1%			
	成功・推進要因	・案内の自宅発送 ・申込み回答書返送方式により、申込み受付を自前で実施、これにより申込み状況を把握し、受診奨励策を展開できた ・未回答者への案内再送付 ・電話による受診奨励 ・託児コーナーの設置（一部会場） ・対象年齢を満たす場合は、自己負担なし			
	課題及び阻害要因	・未回答者への対応 ・事業所により受診者数の数にバラつきがある ・キャンセル者への対応			
予算額	- 千円	決算額	31,658 千円	評価	4 . 80%以上
事業目標					
アウトプット指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-【達成度】-%）受診率59.4%（平成25年度56.1%）[-]				
アウトカム指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-【達成度】-%）-[-]				

14事業名	直営保養所				
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	直営保養所	事業の目的 および概要	【目的】 ・リフレッシュ ・研修・コミュニケーション ・健康増進 【概要】 被保険者および被扶養者の保養		
事業分類	8-イ				
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所 全て
実施主体	1. 健保組合		性別	男女	年齢 0～74
実施計画 (平成29年度)	継続		対象者分類	全員	

振り返り	実施状況・時期	直営保養所2ヵ所 ・IHIグループ伊豆高原荘 ・IHIグループ蓼科山荘			
		利用者数（H29年度） ・IHIグループ伊豆高原荘：4,702名 ・IHIグループ蓼科山荘　：3,322名			
	成功・推進要因	IHIグループ伊豆高原荘 ・都心から比較的近い ・風光明媚な立地 ・温泉			
		IHIグループ蓼科山荘 ・スキー場が近接している立地 ・露天風呂			
	課題及び阻害要因	IHIグループ伊豆高原荘 ・テニスコート跡地の有効利用			
		IHIグループ蓼科山荘 ・施設老朽に伴う計画的な改修			
予算額	- 千円	決算額	274,599 千円	評価	4 . 80%以上
事業目標					
アウトプット指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-　【達成度】-%）-[-]			
アウトカム指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/-　【達成度】-%）-[-]			

15	事業名	契約保養所			
健康課題との関連	該当なし				
予算科目	その他	事業の目的 および概要	【目的】 ・リフレッシュ ・研修・コミュニケーション ・健康増進 【概要】 被保険者および被扶養者の保養		
事業分類	8-イ				
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員		
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続				

振り返り	実施状況・時期		契約保養所 四季倶楽部 ：429名 その他契約施設：55名			
	成功・推進要因		・希望に沿った施設が選べる			
	課題及び阻害要因		・リピーターが多い			
予算額	- 千円		決算額	984 千円	評価	4 . 80%以上
事業目標						
アウトプット指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]				
アウトカム指標		-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）-[-]				

STEP 4 - 2 期末評価

事業全体の目的と目標の確認

事業全体の目的	・ヘルスリテラシーの向上 ・医療費の適正化 ・生活習慣病の重症化予防
事業全体の目標	・事業所への医療費データの提供による情報共有 ・コラボヘルス体制の構築 ・健康教室、健康相談の開催

健康課題ごとの振り返り

1	①一人当たり医療費が「呼吸器疾患」「歯科」「新生物」の順に高く、続いて「内分泌・栄養・代謝疾患」が高い。被保険者では「循環器系疾患」が特に高い。生活習慣病や生活習慣病に関連する疾病が高い傾向である。 ②生活習慣病の疾病別にみる医療費では、「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「虚血性心疾患」にかかる1人当たり医療費が高い傾向である。 ③後発医薬品の利用率は向上しているが、健保平均と同様である。
---	---

健康課題の解決度	B	評価理由	医療費や健診結果を分析することで大よその傾向や特徴などが判明できるようになった。それにより医療費の情報提供が事業所に提出できるようになり、事業所への意識付けは徐々に浸透しつつあると思われる。また、新生物の医療費が高いことから、「がん健診」事業の継続することの必要性が理解できた。 全体的には、事業を継続することが中心で、アウトプット・アウトカムを具体的に示すことが出来なかった。 健康課題は3年間で改善傾向がみられたとまでは言い切れない。
対策の達成度	B	(成功要因や阻害要因など)	

番号	事業名	アウトプット指標達成度				アウトカム指標達成度			
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	医療費データ情報提供	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
2	医療費通知	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
3	ジェネリック差額通知	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
4	IHIグループ総合健診 前立腺がん検査（被保険者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
5	自治体がん検査	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
6	IHIグループ総合健診 基本健診＋選択できる検査（被扶養者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
7	IHIグループ総合健診 婦人科検査（被保険者） 選択できる検査（任意継続被保険者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%

2	①40歳代前半から保健指導基準値以上の割合が徐々に高くなる。被保険者では40歳代前半から保健指導基準値以上の割合がすでに高く、若い世代（30歳代）からリスクが徐々に増加している。 ②未治療者のみならず、内服治療中でも血圧や血糖が受診勧奨基準値以上の者が一定数存在する。それが放置された結果として「虚血性心疾患」などの医療費が高い可能性が考えられる。 ③喫煙率は高くはないが、増加傾向にある。
---	---

健康課題の解決度	B	評価理由	各種保険事業はほぼ予定とおり実施できた。特に「被扶養者の特定健診」では、きめ細かな受診奨励や受診環境の提供により実施率70%台を維持することが出来た。また、被保険者のヘルスリテラシー向上のために実施している「健康チャレンジキャンペーン」については、年々その参加率も向上し、コラボヘルスの一環としても浸透しつつある。「特定保健指導」では、他健保同様に実施率はここ数年低迷している。 阻害要因では、「特定保健指導」については、事業所におけるその実施業務の優先順位の低さが実施率UPに影響してしていると思われる。「被扶養者の特定健診」では、未回答者や未受診者に対する何らかの対策が必要と思われる。
対策の達成度	B	(成功要因や阻害要因など)	

番号	事業名	アウトプット指標達成度				アウトカム指標達成度			
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	IHIグループ健康サポート健康教室	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
2	IHIグループ健康チャレンジキャンペーン	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
3	IHIグループ総合健診 特定健診（被扶養者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
4	IHIグループ総合健診 特定健診（被保険者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
5	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被保険者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
6	IHIグループ健康サポート特定保健指導（被扶養者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
7	IHIグループ健康サポート個別サポート（被扶養者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
8	IHIグループ総合健診 基本健診＋選択できる検査（被扶養者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
9	IHIグループ総合健診 婦人科検査（被保険者） 選択できる検査（任意継続被保険者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%

健康課題と紐付いていない事業一覧

該当なし（これまでの経緯で実施する事業）									
番号	事業名	アウトプット指標達成度				アウトカム指標達成度			
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度

該当なし									
番号	事業名	アウトプット指標達成度				アウトカム指標達成度			
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	広報誌（Salu!）発行	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
2	ホームページ	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
3	人間ドック	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
4	電話健康相談	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
5	直営保養所	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
6	契約保養所	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%

第1期のデータヘルス計画への取り組みに対する振り返り

No	設問	回答	評価理由（成功要因や阻害要因など）
		← 全くできなかった よくできた →	
1	STEP1-3基本分析において、自組合集団としての健康状態を客観的に可視化出来たか？		医療費や健診結果を分析することで当組合の傾向を知る指標となった。
2	STEP2健康課題の抽出において、適切に健康課題を抽出することが出来たか？		有効な基本分析結果から課題を抽出することが出来た。
3	STEP2健康課題の抽出において、優先すべき健康課題や対策の方向性を的確に定めることが出来たか？		方向性としては的確と思われるが、具体的な個別事業にはつながらなかった。
4	STEP3 保健事業の実施計画において、事業全体の目的や目標を適切に掲げることが出来たか？		健康課題や方向性から適切な目的や目標を設定できた。
5	STEP3 保健事業の実施計画において、「保健事業の基盤」に関わる保健事業を適切に立案することが出来たか？		「職場環境の整備」として医療費データ提供を事業所に行ったが、それに対する具体的な評価検証はできなかった。 「加入者への意識づけ」として従来実施の事業を設定した。
6	STEP3 保健事業の実施計画において、「個別の事業」に関わる保健事業を適切に立案することが出来たか？		従来から実施している有効な保健事業を継続実施としたが、課題に対する個別の保健事業の設定までには至らなかった。
7	STEP4-1 事業報告において、年次の事業進捗やアウトプット、アウトカムを評価することが出来たか？		ほとんどの保健事業では、具体的な指標を示していなかったので満足のいく評価をすることは出来なかった。
8	STEP4-1 事業報告を理事会や組合会での報告に活用し、次年度の事業計画に活用することが出来たか？		H29年度の理事会・組合会から必要な事項について活用することになった。

事業全体の達成状況に関する総括（自由記述）

予定していた各種の保健事業について、全般的にはほぼ予定とおり実施できた。特に、「被扶養者の特定健診」の実施率の70%台の維持、被扶養者の40歳未満対象者への健診の実施、「健康チャレンジキャンペーン」のコラボヘルスによる参加率の向上、「被保険者や被扶養者へのがん健診」の継続実施等、当組合が従来から実施している保健事業を有効に継続実施できた。今後は、被保険者に対する保健事業をコラボヘルスの充実とともに向上させていきたい。また、それぞれの事業に対する効果検証をしっかりと進めていく必要がある。